



西松会新聞

The Yushokai Shimbun

第12号

平成31年(2019)3月6日発行



巻頭挨拶 P3

- 緒方 徹 (昭49卒 会長)：「当機」と向かい合う年に

小平G人工芝化への期待 P5

- 重満 紀章 (平7卒)：ついに、始動！ P5
- 神谷 佳典 (平7卒)：まず、始めよう！ P9
- 倉崎 嘉幸 (昭57卒)：人工芝化への道のり P10
- 下川 葵 (3年 MGR)：人工芝になったら① P13
- 中田 裕之 (2年)：人工芝になったら② P14

百年史秘話 P16

- 山崎 彰人 (昭49卒)：小平サッカー場とユニホームの思い出 P19
- 笠間 昭彦 (昭50卒)：片山 洋さんとの思い出 P24
- 平林 幸治 (平25卒)：ユニット制に込めた思い P27

戦いを終えて P31

- 中野 正樹 (4年 主将)：今、思うこと P32
- 岡谷 真弘 (4年 GM)：覚悟と成長 P33
- 池田 真 (4年)：イメージと真逆の大学生活 P34
- 大内 健太郎 (4年)：ア式での4年間 P35
- 大山 達也 (4年)：4年間を終えて P36
- 小野間 颯 (4年)：ア式での4年と今後への期待 P37
- 加賀 平朗 (4年)：「学生主体」 P38
- 神藤 悠斗 (4年)：広報ユニットの改革 P39
- 塩月 航輝 (4年)：サッカー漬けの日々 P40
- 重宗 大貴 (4年)：ハッピーエンド P41

- 関澤 勇人 (4年) : ごーる P42
- 田尻 一真 (4年) : 広報・技術ユニットの活動 P44
- 玉水 寛人 (4年) : 「苦楽」 P46
- 戸井 純平 (4年) : 「後悔」 P47
- 中村 祐樹 (4年) : 4年間を振り返って P48
- 西本 優壱 (4年) : ア式部員として P50
- 根木 俊輔 (4年) : 反省と今後のア式へ P52
- 船田 和佐 (4年) : 本気になれる環境 P53
- 堀本 陽太郎 (4年) : 「感謝」 P54
- 松本 紘輝 (4年) : サッカーと真摯に向き合って P55
- 向井 健太 (4年) : フィジカルユニット食事班 P56
- 鹿嶋 茜 (4年 MGR) : 「なぜ頑張れたのか」 P57
- 野口 明穂 (4年 MGR) : 『向き合うこと』 P59
- 平野 優 (4年 MGR) : 四年間の記憶 P61

平成 31 年度シーズンに向けて P64

- 高山 修也 (3年 新GM) : 「一心」で、再び1部の舞台へ

自由テーマ P65

- 橋詰 邦弘 (昭56卒) : 温泉三昧、ついでにサッカー P65
- 樋口 哲司 (昭59卒) : 仕事とサッカーは似ている P67
- 金田 大樹 (平28卒) : ア式の価値向上に向けて 社会人サッカー編 P69

私の学生 LIFE P73

- 城所知希 (3年) : 授業に行く僕は哀れな労働者 P73
- 菅家 恵 (3年 MGR) : マネージャー 華の女子大生ライフ P74
- 雨宮 一郎 (2年) : トラウマ的アルバイト体験記 P76
- 達 康大 (2年) : 一人暮らし P77
- 阿部 海斗 (1年) : 彼女との思い出 P78
- 森下 昂 (1年) : 僕とPS4 P80

追悼 ヤスベー P81

- 有志一同 : 我らが良き友 ヤスベーありがとう!

編集後記 P95

- 福本 浩 (昭52卒 編集長) : 平成の終わりに

🏀 「当機」と向かい合う年に

緒方 徹（昭49卒 西松会 会長）



「当機」という言葉がある。まさに「そのとき」、間髪を入れないという意味である。「当機立断」（応機立断も同じ意味）という用語もある。中国の宋時代の高僧、園悟克勤（えんごこくごん）が編纂した臨済宗の公案集・「碧眼録」に収録してある。禅宗では師匠が弟子を育てるとき、弟子の色々な答えに対して、その答えが終わるか終わらないうちに、機を捉えて即断を下すことを言う。私たちの日常にはチャンス（機）が意外に沢山ある。多くの場合、そのチャンスに気づかず見過ごすこともあるかもしれない。注意が十分ではないために。まさに「当機」、その大きなチャンスを活かすために、常々物事の本質を素早く正確に理解する力や感受性を養っておく必要がある。

禅の世界では、名だたる高僧が竹の鳴る音を聴いたり、葉の落ちるさまを見たりして突然悟りを開くという逸話があるが「当機」と大いに関係がある。毎日必死に修行を積み重ねているからこそ機が熟していることに気づき、まさにそのとき「当機」に巡りあって、一度に目の前が開けるとされている。我々の普段の生活で考えると「チャンス」にどう対応するかに繋がるのではないか。仮に「チャンスだ」と人から提示されても、それを活かせる素地や能力が無ければ、掴み取ることはできないだろう。瞬時に逃げてゆくかもしれない。日常の努力を怠っていて「棚ぼた」は、まずない。

今年、平成から新しい元号に移り変わる、歴史的な年である。

元号に様々な意見はあるだろうが、これを切っ掛けとして色々なものが変化してゆく可能性が大いにある。その年の初めに開催した西松会の総会で、いよいよ小平グラウンドの人工芝化に向けて、実際の寄付を募集することに踏み出した。一昨年までは故安部裕二副会長を中心に地道なデータ収集や折衝、リサーチを続けてきたが、昨年からは平成7年卒の重満紀章幹事や神谷佳典幹事を中心にして、人工芝の施工会社や大学、東京都サッカー協会、地元小平市、その他の関係先に新たな情報収集や交渉を行うなど、積極的取り組みによって、具体的な驚くべき進展が実現している。両氏をはじめ、他の皆さんの努力に心からの敬意と感謝を申し上げる。

今年ラグビーのW杯が開催され、来年は、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックである。そして、2021年には一橋大学ア式蹴球部が創立100年（日本サッカー協会も100年）を迎える。大げさかもしれないが、一橋大学ア式蹴球部と西松会にとって今年、まさに「当機」に当たるのかもしれない。この大きな動きをチャンスと捉え、拙速にならないよう注意しながら実現に向けて確かな歩みを記してゆきたい。重満幹事はベトナムに栄転となったが重ねて謝意を表すると共に、業務のご成功とご健勝を願って、またの日の再会を期したい。

昨年創立100年を迎えた東京大学、それに一昨年だった神戸大学では、現役だけでなくOB・OGを含めた「地域貢献」を、かなり意識した活動を目指している。今回実際のスタートを切った西松会と一橋大学ア式蹴球部の人工芝化への取り組みも、更にはその他の100年に向けた取り組み或いは現役の日常の活動も、こうした「地域貢献」という考え方をしっかりと意識しなければならないだろう。今後の活動にはまだ試行錯誤も続くだろうが、大きな節目の年を目指しつつ、次の100年への思いも込めた活動になるよう、皆さんの大いなるご理解とご協力を心から願うものである。

*西松会OB戦&総会 2019. 1. 12



《西松会幹事名簿》

卒年	氏名	役職	卒年	氏名	役職
昭49	緒方 徹	会長	平13	原 慶一	幹事 (総務・通信担当)
昭53	浅井 幸一	副会長 (監査)	平18	山盛 貴史	幹事 (総務・通信担当)
昭54	鈴木 茂	副会長	平7	神谷 佳典	幹事 (人工芝PJ 担当サブ)
昭56	日置 慶太	副会長	平7	重満 紀章	幹事 (人工芝PJ 担当サブ)
平1	金谷 斎	代表幹事	平19	帰山 圭祐	幹事 (人工芝PJ 担当)
平2	諏訪部 伸吾	副代表幹事 (総務・通信担当リーダー)	平23	星 達也	幹事 (人工芝PJ 担当)
平7	松井 伸太郎	副代表幹事 (人工芝PJ 担当リーダー)	平26	大倉 佑介	幹事 (人工芝PJ 担当)
平7	劔持 隆雄	副代表幹事 (会計・会費 担当リーダー)	平8	朝倉 寛行	幹事 (会計・会費 担当)
昭61	桑原 隆人	幹事 (総務・通信担当)	平23	堀池 良佑	幹事 (会計・会費 担当)
平7	赤星 真一	幹事 (総務・通信担当サブ)	平25	平林 幸治	幹事 (会計・会費 担当)

小平G人工芝化への期待

ついに、始動！

重満 紀章（平7卒 人工芝担当幹事）



去る1月12日（土）に三菱養和巣鴨スポーツセンターで行われた、平成30年度西松会総会に於いて、長年の懸案であった小平グラウンドの人工芝化プロジェクトが決議されました。今後アメリカン・フットボール部とタッグを組み、OBの寄付を中心に総額**2億4千万円**を集め、**2020年3月竣工**を目指すことになります。

小平グラウンドは1996年の小平分校の廃止に伴い、体育などの授業で使用されなくなったことから大学の予算配分が割り当てられなくなり、土質・勾配の劣化、排水設備の機能不全などから特に雨天時など益々使用に耐えられない状況となっております。公式戦は当然のごとく小平で行われることはまず無く、加えて練習も小平グラウンドを避け、予約が取れる限り府中の郷土の森サッカー場などを使用していると聞きます。



人工芝化は過去より現役・OBを問わず議論されてきながらも実施に至らなかった理由は、主として設置費用の個人負担の高額さにあったと考えます。しかし昨今は公立小中学校を含めた学校施設や公的グラウンドの人工芝化の案件が目白押しで、価格が随分こなれてきました。積水樹脂などはドイツから輸入していた人工芝を国内の工場でライセンス生産を開始。これらの要素で、サッカー+アメフト+野球場で3年前に**3億4千万円**であった見積もりが、**2億4千万円**にまで大幅低減したのです。そのうちサッカー一部負担分は**1億2千万円**で、OB1人当たり**平均40万円**の負担を想定しています。これは約1億円の寄附を集め2008年に人工芝Gを完成させたラグビー部の例に倣い、OBの内6割が寄付に応じるとの前提に基づき、1億2千万円をOB総数500名の6割である**300名**で割った数字になります。



1月下旬から「一橋大学後援会」を通じ、一口2万円、20口推奨という形で寄付金の受付を始めています。決議された以上、一気呵成にプロジェクトを進め来年度中の竣工に漕ぎ着けたいと考えております。準備万端で創部100周年を迎えられれば、これに越したことはないと考えます。

1年前の総会で同期の神谷君と共に大役を金谷総代表より仰せつかり、体調を崩された倉崎先輩に過去の経緯含めてご指導頂きつつ、アメフトOB、大学学生課、人工芝工事業者、大学後援会、大口寄付者候補の外部団体、準硬式野球をはじめとするグラウンド利用者らとの調整に奔走して参りました。頂上は見えた気がしております。あともう一頑張りし、皆さんと人工芝になった小平グラウンドで笑顔でお会いできることを楽しみにしております。

<http://www.hit-u-koenkai.or.jp/donation/index.html>

公益財団法人 一橋大学後援会



手続き（ご寄附から税の還付）

1.ご寄附の手続き

1)寄附申込書をダウンロードして、必要事項を記入して作成

寄附申込書のダウンロード (Excel/PDF)

2)寄附申込書の送付

送付先	電子メールの場合	kifu-moshikomi@hit-u-koenkai.or.jp
	郵送の場合	〒186-8601 東京都国立市中2-1 国立大学法人一橋大学内 公益財団法人一橋大学後援会
	FAXの場合	042-580-8071

3)寄附申込書にて選択した指定口座に寄附金の振り込み

4)後援会にて入金確認後、領収書・認定書・税額控除に係る証明書を自宅に送付

<http://www.hit-u-koenkai.or.jp/donation/pdf/application.pdf>

公益財団法人一橋大学後援会 寄附申込書

次のとおり、寄附を申し込みます。

平成 年 月 日

フリガナ	
氏名/社名	
住 所	(〒 —)
日中連絡がとれる 電話番号	() —
卒業年次 学部研究科名	<input type="checkbox"/> 昭和 年 <input type="checkbox"/> 学部 卒業 <input type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 研究科
寄附目的	<input type="checkbox"/> 大学の教育及び研究の推進 <input type="checkbox"/> 武山基金 <input type="checkbox"/> 学問風土育成基金 講義名 () <input checked="" type="checkbox"/> 課外教育振興基金 部名 (サッカー部) <input type="checkbox"/> 植樹会基金 <input type="checkbox"/> 障害学生支援基金 <input type="checkbox"/> 大学史編纂基金 <input type="checkbox"/> HEPSA交換留学生基金 <input type="checkbox"/> 育児支援基金 <input type="checkbox"/> 災害奨学基金 <input type="checkbox"/> その他 () ◆ご寄附いただける背景などがありましたらご記入ください。
金 額	円
振込予定日	年 月 日 予定
振込先	<input type="checkbox"/> 三菱東京UFJ銀行 神保町支店 普通 1374919 <input type="checkbox"/> 三井住友銀行 神田支店 普通 6408813 <input type="checkbox"/> みずほ銀行 九段支店 普通 1119378 <input type="checkbox"/> ゆうちょ銀行 (記号) 10170 (番号) 91452781 <small>口座名義：ザイ) ヒトツパンダイガクコウエンカイ</small>
◆ このご寄附は、氏名及び金額を如水会々報に掲載させていただきます。 <input type="checkbox"/> 承諾します <input type="checkbox"/> 匿名として下さい <input type="checkbox"/> 一切掲載無用です <input type="checkbox"/> その他ご要望 ()	
事務局記入欄	入金日 年 月 日 曜日

【問合せ・送付先】

公益財団法人一橋大学後援会 2018.2
〒186-8601 東京都国立市中2-1 国立大学法人一橋大学内
e-mail: kifu-moshikomi@hit-u-koenkai.or.jp TEL/FAX: 042-580-8071

【申込書の送付方法について】

送付先に、e-mail (申込書を写真撮影し添付ファイルにて送信も可)、FAXまたは郵便でお送りください。

🏆 まず、始めよう！

神谷 佳典（平7卒 人工芝担当幹事）



昨年8月から西松会幹事会に参加し、微力ながらプロジェクトを推進させて頂いております。私が参加した理由は、これまでOBとして、ほとんど貢献できていなかった、1部昇格ができる実力を持ちながら劣悪な環境でひたむきに頑張る現役に応えてあげたかった、その2点です。

最初に参加した幹事会で何となく感じたのは、停滞感でした。

多額の費用を集めるためのイメージがわいていなかったのだと思います。同期の重満君と共に、すでに人工芝化した他部のヒアリングをしイメージすることから始めました。ラグビー部・ホッケー部にヒアリングしてみると「寄附がどのくらい集まるか？」を算段するより「まずは始める」ことを優先し、始めてみたら「集まった」ということでした。

実際に重満君を中心に、これまでの交渉先や人脈をあたる中で新たな展開が生まれてきました。広く相談することで話が広がっていき助けてくれる人が出てきました。如水会や一橋後援会も協力してくれています。まだ確定していませんが、非常に強力な支援者候補と現在交渉しております。よくよく聞いてみると、この支援者は、重満君が別で声をかけていたある企業から小平グラウンドの人工芝化の話聞いて興味を持ち、アプローチされたようです。そんなことがあるんですね。本格的にプロジェクトを開始して約半年、進むときは、こうして一気に進んでいくんだと思います。

この寄附活動を通じて、ア式蹴球部の支援者がもっともっと増えればいいですね。公式戦が1日でも早く小平グラウンドで開催できるよう一気呵成に進めていきたいと思います。皆様におかれましては、OB・OGに限らず幅広く声をかけ、ご協力を募って頂ければと思います。宜しくお願いいたします。

*夏合宿 山中湖にて 平成4年（1992）



*人工芝プロジェクトを支える平7卒3人衆
（松井・重満・神谷）

人工芝化への道のり

倉崎 嘉幸 (昭57卒 前代表幹事)



今年の総会にて小平Gの人工芝化に向けた募金が提案、承認されました。平成24年から3年連続で、総会において人工芝化の提案を続けた者としては感慨深いものがありました。検討を始めた頃のことを少し書かせて頂きたいと思います。

私がお誘いを受けて副代表幹事になったのは、もう10数年前でした。

一緒に活動を始めたメンバーでまずは学生の応援を始めようという事で小平通いを始めましたが3年連続で3部3位。毎年、最終戦で敗れるという現実に直面しました。上を目指すためには何が必要かという議論の中で、30数名だった部員(東大の半分)を増やす方法や監督・コーチの体制強化、それに必要な費用を賄うための会費のあり方などが話し合われ、グラウンドの改善も必要との認識が幹事会と現役の間で共有され始めました。そして平成20年にラグビー部の人工芝グラウンドが国立に完成し、サッカー部も検討を始めようという機運が高まっていったのです。同年にはOBと現役の交流を深めるために、試合結果のメルマガ配信や西松会新聞の発行も始まりました。

*ラグビー部の人工芝グラウンド(国立) 平成20年2月 完成

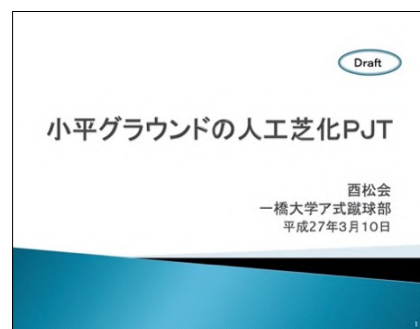


平成23年から代表幹事になり、人工芝化プロジェクトを検討するに当たって、どこから手を付けたらいいものか分からないため、まずは大学に行って教えてもらうことにしました。学生支援課から施設課、資金課をご紹介頂き、何をどう進めればいいのか分かってきました。最初は必ずしも人工芝ありきではなくグラウンドの改良、外部グラウンドの賃借、天然芝なども狙い上げました。検討の中で人工芝がベストであること、またサッカーグラウンドのみの人工芝化では強風の日など周囲の土や砂塵が人工芝の上に積もり劣化が早いことも分かり、アメフトと準硬式野球のグラウンドとセットで小平グラウンドの「全面人工芝化」の検討に進みました。

お隣のアメフト部にも同じ機運があると聞いておりましたので、N先輩にお会いすることにしました。その方のお父様は一橋のラグビー部のOBで、人工芝化の資金集めについても詳しくご存知でした。また国立の陸上部のトラックの内側をアメフトとサッカー共用のグラウンドにする案も検討しました。しかし投擲が使うので難しいとのことで、その案はなくなりました。N先輩はグーグルマップで国立・小平周辺の大企業保有のグラウンドを調べ、実際にそのグラウンドを訪問するという事もされていまして。グラウンド人工芝化の費用の一部を出資し使わせてもらう検討でした。何度もアメフトと打ち合わせを重ねる中で色々教えて頂く事がありました。新人勧誘のイベントへのお金の掛け方、イヤブックスの活用などすぐに学生と共同研究しサッカー部でも採用しました。部員増加の一助になったと思います。

OBで日本サッカー協会の松永さんには、天然芝の苗を無償で頂けるプログラムがあるという事を教えて頂きましたが、メンテナンスにかかる学生の労力が大きすぎるという事で断念しました。また山根先輩にはFC東京のコーチをご紹介頂きコンタクトを始めました。新小平に人工芝を2面、天然芝を1面お持ちでしたので学生にはFC東京ユースとの練習試合を組んでもらい、グラウンドをお借りすること、人工芝・天然芝のメンテナンス方法の学習、定期的な練習試合によるチームの強化の3点を狙いました。

亡くなられた安部前副会長のことにも触れさせてください。総会の資料の半分は安部先輩に書いて頂きました。他の大学サッカー部とのベンチマーク、陸上部OB会の全天候型タータントラック化の調査などは特に労作でした。廉価版人工芝グラウンドの施工業者を探し、小平に来てもらって見積りを頼んだ時には、休みの日に自発的に依頼業者の1つ「つくばFC」の本社を訪問され施工事例を見て来て頂きました。また2人で都内の施工業者を何度も訪問して見積りまわりのヒアリングをし、小平の「全面人工芝化」にかかる費用を芝のグレード別に3パターン（梅・竹・松）プレゼン資料に盛り込みました。



4. ベンチマーク情報

- 他の国立大サッカーグラウンド
 - ① 東大御殿下：大学予算（近隣の砂埃対策）
 - ② 東工大：大学予算（授業に使う、野球・ラグビー・陸上等と共有G）
 - ③ 首都大：2014年に人工芝化
 - ④ 東京外語：未だに土
- 本学の他のサークル
 - ① 空手：道場の建て替えに400万円をOB寄附
 - ② 陸上：タータントラック化に800万円をOB寄附
 - ③ ボート：合宿所改修に1億円をOB寄附
 - ④ ラグビー：グラウンドの人工芝化に800万円をOB寄附
- 他の私学サッカーグラウンド
 - 基本は、大学負担。慶応は25%をOB寄附
- 現状認識
 - 人工芝化に際しては、現状では大学の負担は期待できず、サッカー部としての資金確保が必要となっている。
 - ① 近隣からの砂埃の苦情がない。
 - ② 大学の授業に使っていない。
 - ③ 本学他のサークルのOB寄附の事例が積み上がってきている。

・以上の3点が大きい

(添付2)：見積もりサマリー

◆セット工事：サッカー 7690平米 + アメフト 8372平米

人工芝グレード	梅	竹	松
税抜き価格 (百万円)	244.0	281.0	319.0
20% オフ	195.2	224.8	255.2
面積按分 サッカー	93.5	107.6	122.2
面積按分 アメフト	101.74	117.17	133.02

◆単独工事：サッカー

人工芝グレード	梅	竹	松
税抜き価格 (百万円)	118.0	136.0	154.0
15% オフ	100.3	115.6	130.9
人工芝 平米単価 (円)	8600	10500	12500
セット割引率	93%	93%	93%

昨秋には重満君へのアドバイスをとのことでしたので、私が持っているデジタルの資料をすべてお渡ししました。3年間のブランクがありましたが、一気にほこりを払い、物語を完成させ、最終提案につなげて頂きました。大変な情熱を感じました。重満君は今年4月から海外にご転勤されますが、チームで動き始めているので、しっかりフォローして頂けるものと思います。

人工芝も創部100周年も大変なイベントです。また部員数が70名を超える所帯となり、それに見合った会費の見直しなども必要でしょう。どれも簡単ではありませんが、着実に地道にやっていくしかないでしょう。水を運ぶ人が必要です。酉松会には優秀な方が沢山いらっしゃいます。動き始めれば少しずつ前に進めます。色々なお考えがありますので、できるだけ長所にスポットライトを当て、共通項を探してポジティブにいきましょう。手弁当でやっている同好の士の集まりですから。人工芝も、まだまだ、ひと山ふた山ありそうですが、実行部隊の方々に頑張って頂き、ぜひ新しいグラウンドで皆さま方と笑顔でお目にかかりたいと願っております。



① 人工芝になったら

下川 葵 (3年 MGR)

小平練習の朝・・・

汚れへんように髪の毛はくくっていくか、
爪伸びてきたし砂がはさまらへんように切っていくか、
靴下は2足持っていかなあかんわ、
練習後遊びに行くけど黒い服着ていかな首元汚れそうやな、
顔洗いたいからタオル持っていこう、エトセトラ、エトセトラ。
色々と考えて、対策してから練習に向かいます。

着いてからも、ビニール袋を靴下の上に履こうか、
スマホもビニール袋に入れよう、部の荷物が汚れてしまったな、
と、土ならではの苦労は続きます。それらにも慣れてしまい、
人工芝のグラウンドで活動している他大マネージャーから見ると面倒くさそうなことも、今や日常の一部です。

小平が人工芝になったら・・・

今日はちょっと早く起きたから、髪の毛巻いていこう、
爪伸びてきたし、そろそろネイル新しくしにいっか、
練習後遊びに行くから、昨日買った春色のワンピースに
白い靴下を合わせたらいい感じになるんちゃうかな、エトセトラ、エトセトラ。
風が強い日でも、荷物も少なく、化粧をして部活に行けそうです。

着いてからも、ビニール袋に入りきらないような大きなスマホケースを使い、
スクイズに付いたりポカリに入ったりする土がなくて、作業の手間も大幅に削減できそうです。
人工芝になって困ることは特になし、と言いたいところですが、あえて言うなら、公式戦の
運営をしなければならなくなることでしょうか。でも、その面倒くささと引き換えに、
リーグ戦での勝利の瞬間を小平で味わえるのだから、大したことはないはず。

残念ながら私は新4年生で、人工芝になった小平で部活をすることはないでしょう。
念願の人工芝化が実現するのに、少し寂しいです。しかし、小平グラウンドが芝になって
初めての練習で、後輩たちが嬉しそうに騒いでいる様子や、人工芝で生き生きと練習を
している様子を思い浮かべると、それだけでワクワクして自然と笑顔になってしまいます。
小平のグラウンドで東京都1部の強豪校と互角に闘い、さらには小平で関東昇格を実現させる、
そんな日が来るのかもしれない。



⚽ 人工芝になったら ②

中田 裕之 (2年)



今回、人工芝化が実現したら何をしたいかという題材で寄稿させていただくことになったので、今まで他校の人工芝のグラウンドで試合をしながら膨らませていた妄想を、ここで述べたいと思います。

まずは生活圏が、かなり縮小するのではないかと、思います。

これは一見すると悪いことのように思えますが、電車賃などで交通費を取られるのが痛い大学生である私達にとって大変ありがたいことです。きっと小平周辺や小平寮に引っ越す人が出てくると思います。私は立川に住んでいて居心地がいいので引っ越ししたりはしませんが、それでも郷土の森Gよりも小平Gの方が近いので嬉しく思います。また、私は今、次のバイトを探しているところなので、この先はバイトをコロコロと変え、人工芝化完了の頃にはバイト先を小平周辺に固定化しようかなとも考えています。(今のバイトは適当にやりすぎてクビになりました 笑)

人工芝化における自分のサッカー一面についての変化は、本当に楽しみでなりません。

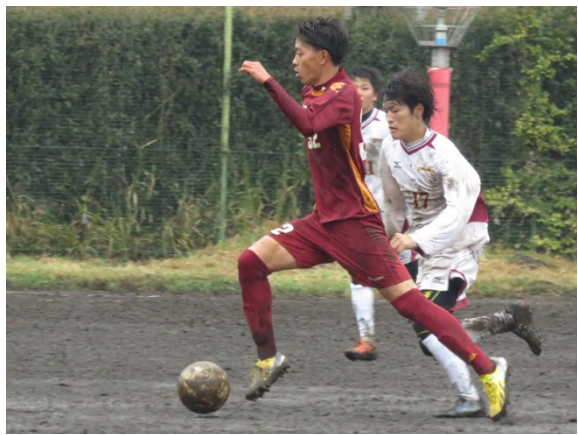
自分たちの人工芝グラウンドを持つのは私の人生初なので、想像もつかないほど快適な練習ができるのだと思います。そもそも、あの土で木々が鬱蒼と生い茂る小平Gが、青々とした美しい人工芝に変わることで体が、どこか不思議で、現実として感じられずにいます。また、人工芝化が完了する頃には私は4年生になります。いよいよ大学サッカーも集大成ですから、まず間違いなく練習日のほとんどの時間をグラウンドで過ごすことになるはずですが、バイトなんかしてる場合ではないかもしれません。今、電車の中でこの記事を書いているのですが、人工芝グラウンドのある生活を思うと、思わず笑みがこぼれそうになります。

4月から3年になる私は、酉松会に深く関わらせていただくことになります。

その中で人工芝化に向けて、是非ともOBの皆様にご協力させていただきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。



*小平G：雨の試合 2015年11月



百年史秘話

2021年、一橋大学ア式蹴球部は創設100周年を迎える。その根拠となる資料は、サッカー部初の部誌『蹴球』の創刊号（昭和9年）に掲載された創設メンバーの1人、川村通氏の寄稿である。

川村氏は、大正9年に一橋大学の前身である東京商科大学（予科3年・本科3年）に入学。その翌年、大正10年（1921）の春に「商大蹴球団」が結成され、6月に東京高等師範学校（後の東京教育大 / 現筑波大）のグラウンドで、早稲田高等学院（早大予科）と初試合を行なったという。結果は、スコアレスドロー。



蹴球団第一回の對外試合を終へて

於東高師

こうして産声をあげたサッカー部だったが、思いもよらぬ天災に襲われる。大正12年（1923）9月1日、関東大震災・・・神田一ツ橋にあった校舎の大半を失う。翌年4月、予科は石神井に造られた仮校舎に移転、そのグラウンドで練習を再開する。「石神井グラウンドは元イモ畑で凸凹だらけ。練習前にシャベルで雑草の強い根を除去するのが日課だった。雨が降れば泥沼となり、乾くと土煙が舞う砂漠と化す。当時、勢いがあったラグビー部と半面ずつの共用で、肩身が狭かった」と、当時を知る先輩は「60年史」に記している。



大正 14 年 (1925) 秋 石神井予科グラウンドにて



大正 13 年 (1924)、ア式蹴球東京カレッジリーグ (関東大学リーグの前身) が始まる。商大は 2 部からスタートするが、成績は振るわず年々下降線をたどり、昭和 6 年 (1931) には 4 部にまで降格してしまう。しかし翌年から V 字回復。毎年昇格していく。そして・・・予科が小平に移転し、新しいグラウンドを使い始めた昭和 9 年、商大サッカー部は 1 部に昇格！さらに昭和 15 年には早稲田と同率ながら、1 部で準優勝！まさに黄金時代だった。

昭和8年8月に、商大予科が小平に移転。

昭和9年（1934）の春から、小平の「サッカー専用グラウンド」で練習を始める。

それまで不便と悪条件の中で練習してきた部員たちは、夢かとばかりに喜んだという。



小平グラウンドの歴史も古く、今年で85年になる。
何千人もの部員たちが流した血、汗、涙、歓喜、夢・・・
戦争で命を落とした先輩もいる。
彼らの想いが、この土の中にしみ込んでいる。

大正、昭和、平成、そして新元号の時代へ・・・
一橋大学ア式蹴球部100年の歴史に秘められた物語を、
このコーナー「百年史秘話」で繋いでいきたい。

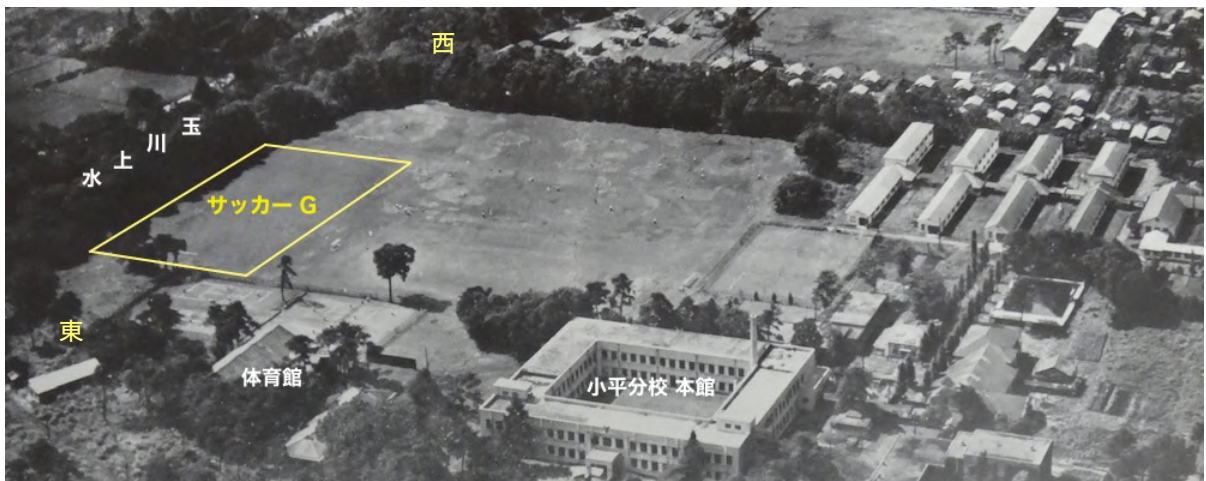


⚽ 小平サッカー場とユニホームの思い出

山崎 彰人 (昭49卒)



サッカーは土のグラウンドであるのが当たり前、芝生のサッカー場や陸上競技場で試合ができるのは高校・大学トップの大きな大会の準決勝から。人工芝など聞いたこともない。台風や大雨の後は「小平湖」と呼ばれるプールが出現した。昭和45年、降雨の中の対外試合は関東ローム層の黒土が水浸しになった小平サッカー場で当然のように行われた。スライディングタックルの後、泥水が耳の中に入り、ぴょんぴょんと片足で跳ねて、その泥水を耳から出そうとしている者がいる。当時の小平サッカー場は玉川上水に並行してタッチラインが引かれ、東側のゴールポストの後ろに木立があった。



高校時代トップレベルを経験していた自分にとって一橋大学ア式蹴球部には物足りないところが多く、よく生意気なことを上級生に言っただけで叱られていたが、グラウンドには特に不満だった。雨が降ると直ぐ水が溜まりボールを使った練習ができない。雨が上がった後も水はけが悪いため、残った凹凸がひどく、まともなパス練習にも難儀した。

大学からサッカーを始めた人が多く、ボールを使った基礎練習をもっとすべきだと思うのに、ちょっと雨が降るとGMが、「玉川上水沿いに津田塾大まで走るぞ」と号令を掛ける。足元の技術で劣るから走り勝つしかないという方針に反論は困難だ。でも、俺たちは陸上部かと何度も思った。ひたすら走る一橋サッカーは「百姓一揆」と呼ばれていた。

昭和45年秋のリーグ戦（東京都1部）は、専修大、拓大、学芸大、学習院大、成蹊大、亜細亜大、明学、駒沢大、自由学園大と対戦して、3勝3敗3分けだった。3年連続で関東大学リーグ2部復帰の目標を果たせなかった口惜しさだけが残った。専任コーチなし、学生GMが練習計画を立て、試合メンバーは他のリーダーと相談して決め、身の丈に合いそうな目標を立て、達成するために試行錯誤を繰り返す。ずっと続いている一橋大学ア式蹴球部伝統の学生による自主運営の姿である。

リーグ戦終了後、サッカー場を北へ90度回転した位置に移す工事が始まる。水はけが良くなることには大いに喜んだ。但し新サッカー場が完成するまで、ゴールポストがない。シュート練習ができず、隣の準硬式野球部グラウンドでパス練習を繰り返すのみ。新GMの「津田まで走れ」の号令も更に多くなった。翌春のシーズン前に完成した新サッカー場の水はけは期待通りに良く、綺麗な砂地でグラウンドを平らにする整備にも自然と身が入った。以前は東側でボロボロになっていたシュート板も南側に新調された。





昭和40年



昭和50年頃

その頃、[内野正雄](#)さん（中央大出・古河電工・メルボルン五輪日本代表）が臨時コーチに来てくれた。「平らで良いグラウンドで練習すればボール扱いが上手くなる」と言って整備の行き届いたグラウンドを褒めてくれた。新小平サッカー場は東京都学連公式戦会場として公認され、秋季リーグ戦では貴重なホーム開催試合を何試合か確保できた。最近は人工芝のサッカー場が増えたため公認もされず、表面が砂漠化しているという。今後人工芝化を進めると聞くので、何とか早期実現の手助けをしたいものだ。



サッカー場と不可分な思い出は、ユニフォーム（以下、ユニと表記）である。

私が超マイナーだったサッカーを始めた小学生時代は、ユニなどなかった。中学サッカー部ではデパートで皆が同じ白い下着のシャツを買い、ポジション別に固定された背番号をマジックでそれぞれが書いた。字体もサイズも一人一人違って滑稽だった。でもサッカー少年たちは、サッカーができればよかったのだ。

名門だった高校サッカー部もチームに一揃いのユニしかなく、それはレギュラーメンバーだけが着るものだった。サイズの種類がなく背番号はポジションにほぼ固定されていたから、大きな選手が小さなユニで窮屈に、小さな選手がだぶだぶのユニでプレイするのは当時珍しくなかった。一橋大学ア式蹴球部も同様に、最初に着たユニは24番。新人の自分に合う大きなサイズは、その番号のユニだけだった。当時の一橋正ユニは、上がスクールカラーの赤・パンツが白・ストッキングが赤。副ユニは白・白・白。白のパンツと白ストッキングは自前だった。試合で着たユニは自分で洗濯し、マネジャーに返していた。

2年時のリーグ戦は、新サッカー場のホームの利と勝負運に恵まれて関東大会に進出したが、獨協大に足をすくわれて0-2で敗れた。3年時は中高でサッカー経験のある部員が多く入部し、上級生のスキルも高く、勝算をもって臨んだ。しかしホームの初戦、自由学園大に何と3-0から3-4と大逆転で敗れ、強豪校に接戦するも悉く僅差で落とし、1勝しかできずに東京都2部との入れ替え戦に回るといふ不運に会った。

4年時、主将になり最後のチャンスだと気持ちを高めていた折り、成蹊大がユニを新調した。濃紺一色から赤黒の縦縞に変わり、デザインが斬新で凄いインパクトだった。親しかった成蹊大の主将・吉成君に尋ねたところ、強くなるためにユニを一新することにし、西馬込でサッカーショップを営んでいた宮本征勝さん（早大出・古河電工・メキシコ五輪日本代表）にデザインも含めてお願いしたという。勝つためなら何でもやりたいと監督の外岡諒三郎先生に相談した。外岡先生は「毎年、関東2部復帰と唱えながら頑張ってきたが、なかなか実現しない。ユニを変えることでチームが変わるならやってみる」と背中を押して下さった。宮本さんは、過去からの脱却と、大きく、強く見える、というテーマで黄色に青の襟というデザインを提案され、随分と値引きもして下さり、外岡先生が「宮本征勝さんのお薦めで、この値段ならいいじゃないか」と即決した。

*三商大戦 昭和48年（1973）於小平 握手しているのが山崎



新ユニのお披露目は、昭和48年7月、小平開催の三商大戦。

神戸大と黄・青・黄、大阪市大とは赤・白・赤で対戦した。新ユニ効果とコーチに来て頂いた片山洋さん（慶應大出・三菱重工・メキシコ五輪日本代表）の指導もあり、関西大学選抜が何人かいた神戸大に完勝した。

秋季リーグは勝負ユニになった黄・青・黄で通した。

残念ながら駒沢大や青学大に大敗したし、古いOBの一部からは、赤白赤の伝統を捨てた、とか黄色はピンとこない、とか非難や不評も買った。しかし片山コーチご指導の下、ホーム開催試合で星を落とさなかった我々は、リーグ最終戦のホームで専修大に0-1から4-1と逆転勝ちして勢いに乗り、関東大会では明学大グラウンドの群馬大、駒沢陸上競技場の明学大と続けてPK戦を制した。浦和駒場サッカー場で行われた関東大学2部7位との入れ替え戦は上智大に2-0で勝ち、6年ぶりに関東リーグ復帰を決めた。黄色ユニは勝って官軍になり、OBの間から不評も聞かれなくなった。その後、黄色ユニは何年生き残ったのだろうか。

*何名かのOBに聞くと、黄青黄ユニは昭和54年まで着用していたという



故 安部裕二（昭52卒）



関東2部のリーグ戦 昭和51年（1976）秋

卒業してかなり経ってから、部員が個人で夫々ユニを買うことになり、背番号もポジション別にではなく、属人的に決まることになったと聞いた。チームに共有で限られた数しかユニがないのは貧しい時代の姿だったのだろう。我々の小学校時代は給食費が払えない同級生がいたし、部活動でユニを自費で買うなど考えられなかった。買えない者が必ず出ると思われたからだ。仲間を困らせない、というのは皆が共有する暗黙の了解だった。

近年は中学の大会ですら、冬場には選手が揃いの上等なグラウンドコートを着ている。日本も日本のサッカーも本当に豊かになった。いずれは人工芝グラウンドも出来るだろうし、現役諸君は心置きなくプレイして欲しい。

🏆 片山 洋さんとの思い出

笠間 昭彦 (昭 50 卒)

昭和 43 年 (1968) メキシコ五輪で銅メダルを獲得したサッカー日本代表。その先発メンバーの 1 人が一橋ア式蹴球部のコーチをしていた時代がある。



今年 1 月 26 日に昭 50 卒の同期 4 人で、3 年次・4 年次の 2 年間 (昭和 48~49 年)、コーチとしてお世話になった片山 洋さんと再会した。44 年ぶりだが、片山さんは当時と変わらずオシャレで、ダンディで、78 歳とは思えないほど若々しく、かっこよかった。



若い人は片山さんの経歴を知らないかもしれないが、19 歳で日本代表に選出され、大学 (慶応) と社会人 (三菱重工 MHI)、どちらも主将として大学選手権と全日本選手権を制した。東京とメキシコ五輪では、サイドバックとして活躍。メキシコでは全試合に出場し日本の銅メダル獲得に貢献した、まさに日本を代表するスター選手だった。そんな片山さんが、33 歳の若さであっさり現役を引退。そのまま一橋のコーチに就任されたのである。

弱小チームのコーチをなぜ引き受けてくれたのか、当時は不思議でならなかった。後日談だが、チームの運営方針を巡って当時の MHI 監督に反発したため「クビを宣告された」のだそう。他チームへの移籍話もいろいろあったようだが、最後はサッカーをきっぱり辞めて会社に残る選択をされた。片山さんらしい潔い引き際だった。



一橋のコーチ就任も偶然の賜物。以前は古河電工出身で日本代表のOBに指導を受けていたが、後任はMHI出身からとなっていた。人選を任されたのがサッカー部出身ではないが、人事部に在籍していた一橋OB。偶々直属の部下だった片山さんに白羽の矢を立て説得してくれた。ちなみに片山さんはコーチ就任と合わせ、一橋卒業生の採用増も、その上司から指示されていたそうで、昭49卒の松沼さんや昭50卒の同期である宇田君、岡田君は、その後MHIに就職している。

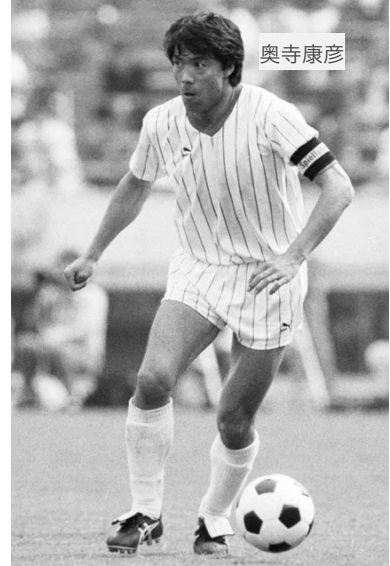
片山さんとの思い出は尽きない。関東2部に昇格したばかりで何とか2部残留を果たしたいと考えていた我々に、「2部残留なんぞではなく次は1部昇格を目指せ」と指示された。最初は半分冗談のように聞いていたが、そのうち同じグラマネの内田君と2人で、本気でその気になり、頑張った。秋のリーグ戦中は毎週のように、お昼時に丸の内のMHIビルを内田君と訪問。試合の結果報告を行い、次戦に備えた戦術のアドバイスを受けた。すごいと思ったのは1回の練習試合で後半を見ただけなのに、個々の選手の特徴やプレースタイルに加え、性格・気性までびっくりするほど見抜いており、その特徴を活かした選手起用法など、実に的確なアドバイスを頂いた。一流の、一芸に秀でた人間はやはり違うと、いつも感心させられた。

時々夕方からの打ち合わせもあり、その後、片山さん行きつけの店によく連れて行ってもらう朝まで飲んで始発で帰宅したことも。行けば店のはしごは当たり前だったし、どこでも片山さん中心の輪ができて笑いが絶えなかった。こちらは当時のサッカー少年。偉大な選手と一緒にいるだけでも嬉しかったし、酒場でもサッカーのことを聞きたくて仕方なかったが、片山さんの方からサッカーを話題にすることはまずなかった。くらいについて聞き出したところ、学生時代はサッカー漬け。授業中ずっと机の下でボールに触れ続け、通学の往復途上は網に入れたボールを蹴りながら通り、夜はボールを足に挟んで寝ていたそう。サッカーへの想い、情熱は、とても叶わないと思った。日本代表選抜までの道のり、数々の国際試合やオリンピックでの体験など、時間を忘れて聞き入った。今思うと本当に幸せな時間だった。

MHIのチームメイトで日本代表だった杉山隆一さん(左ウイング)や横山謙三さん(GK)と同じ店で偶々隣り合わせとなり、お話を聞く機会もあった。杉山さんは丁度現役を引退する頃で実業団リーグの幾つかから監督就任の要請が来ていたが、全て断り、地域リーグの指導者となって日本を代表するチームを育てたいと熱く語っておられた。その後、地元静岡県に帰り、県2部リーグのヤマハ発動機の監督に就任。7年でJSL1部に押し上げ、8年目には天皇杯を制して日本一になる。まさに夢の実現を目の当たりにした。



片山さんの口利きで、当時の JSL トップチームとの練習試合も経験できた。三菱重工、ヤマハ、ヤンマーディーゼル、古河電工など、どのチームも 1 軍選手が勢ぞろいし、一橋のような弱小チームに対しても手を抜かずに本気モードで対戦してくれた。片山さんに敬意を払ってくれていたのだと思う。私は CB として当時の日本代表クラスの CF と対戦できた。一番の思い出は古河電工にいた奥寺康彦さんとの対戦。後にドイツに渡って活躍した名選手だが上手だし、プレースピードが速くて 1 回もボールに触らせてもらえなかった。CF とのせり合いには自信があり、天狗になっていた私は徹底的に打ちのめされた。そんな生涯忘れることのない経験ができたのも片山さんのおかげである。片山さんも当時のことをつぶさに覚えてくれており、その後、全日本女子チームの監督や某大学のコーチ等いくつか経験したそうだが、一橋のコーチ時代が最も印象に残っているそう。一橋のチーム全体が持つサッカーに対する情熱と真摯さ、そして片山さんの言葉に熱心に耳を傾け、技術・体力は伴っていなかったにも拘らず、それを理解し実行に移そうとする素直さが片山さんの心に強い印象として刻まれたためだと、先日も語ってくれた。



関東 2 部昇格初年度は 3 勝 4 敗と健闘した。それでも 8 チーム中 7 位で駒澤大学との入れ替え戦に回ったが、競り勝って残留できた。チームは間違いなく強くなり、片山さんのおかげと今でも思っているが、本人は自分の力ではないと謙遜され、当時のメンバー全員が頑張ったからと、さらりと言われる。昔も今も、どこまでもスマートな方である。Jリーグになり片山さんのような方を再度一橋のコーチに迎え入れるのは難しいと思われるが、片山さんとの交流を通して我々が教わったことや学んだことは、サッカーのことだけでは決してない。貴重で得難い人生勉強そのものだった。4 月に片山さんを囲む会がある。再会を楽しみにしている。

*小平グラウンドにて 昭和 49 年 (1974)



🏆 ユニット制に込めた想い

平林 幸治 (平 25 卒)



もしかすると、今の部員の皆様にとっては当たり前になっているかもしれませんが、一橋大学サッカー部の特徴の1つに「**ユニット制**」があると思います。監督による一極集中型の運営ではなく**全員参加型の運営方式**で、選手は皆、自分の練習だけでなく、以下のいずれかのユニットに所属してチーム運営に欠かせない仕事をしています。

《サッカー領域 ユニット》	
技術	チーム戦術や練習メニューの考案、ゲームの分析（スカウティング）を行う。
フィジカル	身体づくり・怪我リハビリ・食事の専門的知識を身につけ、選手にフィードバックする。
メンタル	メンタルの強化トレーニングによって、試合でのパフォーマンス向上をねらう。
《非サッカー領域 ユニット》	
広報	各種SNSからの情報発信、告知・試合ハイライト動画の作成など、広報活動全般を行う。
庶務	スケジュール管理、試合のマッチメイク、グラウンドの確保、会計など様々な事務を担当する。
OB	OB戦やOB総会、寄付周りなどの企画運営を通じ、OB・OGと現役の交流を促進する。
イベント・応援	合宿や遠征の運営を行い、集中応援日やレクリエーション企画を通じて部の一体感を向上させる。
用具・施設	小平グラウンドの維持管理、部の用具備品の補充と管理を担当する。
イヤーズブック	OB・保護者への活動報告や新歓パンフレットとして使用するイヤーズブックを作成する。
新歓	スポーツ推薦枠が無い中で多くの新戦力を獲得するために、新歓イベントの企画と運営をする。
マネージャー	タイムキーパー、スコア管理、ビデオ撮影、選手の食事管理など様々な仕事で選手をサポートする。

※現役 HP 及びイヤーズブックより抜粋

実は、この「ユニット制」ですが、私が企画提案しました。

ただ正確にいうと、私が卒業する際に提案し、1つ下の代から本格的に運用が始まっています。なので、私が卒業して以来、5年以上もこの仕組みが機能しているのは後輩たちのお陰であり、アイデアだけ出して去った私としては嬉しい限りです。今回、西松会新聞に寄稿するという貴重な機会を頂きましたので、私が「ユニット制」を企画提案するに至った背景や理由をお伝えしたいと思います。それがサッカー部の発展の一助になれば嬉しく思います。

一橋が東京都3部から2部に昇格した翌年・・・平成24年(2012)、

4年生になりGMを務めることになった私は、何としても1部昇格を果たすため、

「どうすれば勝てるのか？」を徹底的に考え続けました。そして2つの解に辿り着いたのです。それが、「**専門家の力を借りる**」と「**ユニット制**」です。

専門家の力を借りる

平成 21 年（2009）に一橋大学サッカー部に入部した時、常駐の監督がいない中で GM や主将が中心となって運営されている環境に衝撃を受け、とても素敵な仕組みだと思っていました。ただ、1 部昇格を果たすには部員のみでは難しいのでは、と考えるようになったのです。サッカーは「心・技・体」をバランスよく鍛えることが必要ですが、現役部員が本や HP で情報収集するだけでは、現状の課題にフィットする対策を考え結果を出すことは難しい。それならば自分たちで明確にした課題に対する専門家の考えを咀嚼する方が、効率的かつ有効ではないか。

そこで私は「体」分野において、日本サッカー協会アスレチック・トレーナーの並木磨去光^{まさみつ}氏を招聘し、彼の知識を取り入れながらフィジカルトレーニングを始めました。また「技」分野においては、赤星監督に戦術的なアドバイスを多く頂くようにしました。



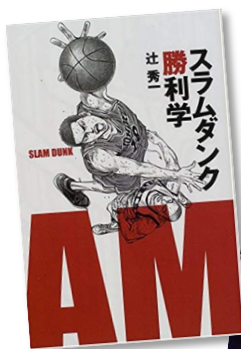
並木磨去光



赤星真一（平4卒）

*現在も一橋のフィジカルコーチを務める並木氏は、日本代表のアスレチック・トレーナーとして3度のW杯、4度の五輪に帯同している。また彼の紹介で、平成26年に当時日本サッカー協会の技術委員長だった霜田正浩氏を「技」分野のコーチとして招聘している。

「心」分野では、私がチームマネジメントの参考にしてきた『スラムダンクの勝利学』の著者でスポーツドクターの辻秀一氏に接触し、平成25年からの支援につなげました。そして、平成26年には並木氏に紹介して頂いた大儀見浩介氏からメンタルトレーニングの指導を受けるようになり、それが現在も続いています。このように「心・技・体」の側面から専門家のご支援を頂くことで、圧倒的な個の力がなくても勝てるチームを築くことを目指しました。



辻 秀一



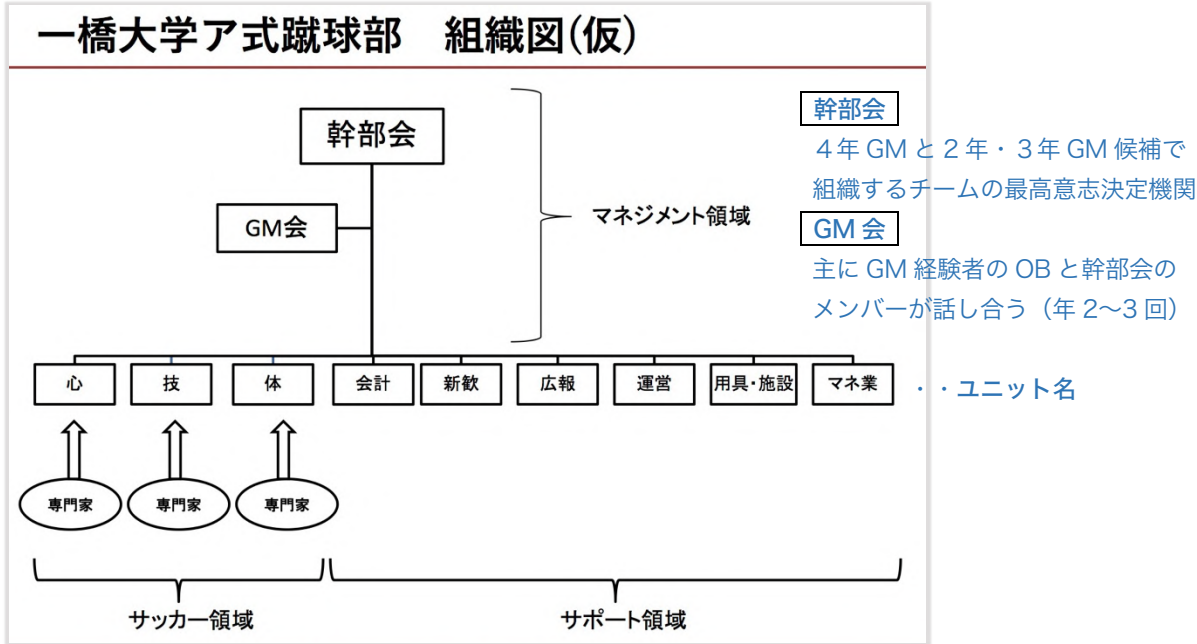
大儀見浩介



ユニット制

私が GM 時代に目標にしていたのは、「勝てるチーム」だけではなく、将来にわたって「勝ち続けられるチーム」を築くことでした。その解が「ユニット制」です。

サッカー部の運営で私が問題意識を持っていたのは、GM に役割が集中し過ぎていたこと。ユニット制を考えるプロセスの中で GM の役割を1つ1つ箇条書きにしたことがありましたが、驚くほど多かったと記憶しています。「サッカー部を強くする」という目的に向け、一橋大学に入学するほど優秀な部員達のポテンシャルを、もっと活かす方法があるのではないかとずっと考えていました。これまでも緩やかに〇〇担当などにはありましたが、体系化されていなかったため、誰が何の役割を担っているということがチームの共通認識になっていなかったのです。もし一人ひとりに明確な役割があれば、部の運営に関わる当事者意識が生まれやすくなり、サッカー部という組織の力を最大限に発揮することができるのではないか・・そう考えて企画提案したのが、下に掲げた「ユニット制」をベースとするサッカー部の運営システムです。



大学の部活は、どうしても4年間という制約があります。当然4年生が中心になってチーム作りをし、1年単位で見ると非常に良い戦略や戦術を考案しているのですが、その1年が終わると、またゼロベースで考え始めてしまい、一貫性や積み上げができないと感じていました。そこでチームの戦略や戦術の意思決定の際に、3年生や2年生のGM候補だった後輩と共に考えるというプロセスにこだわりました。当然、その後輩がGMになったときには自分なりの工夫がなされていくはずですが、それまでの私の試行錯誤のプロセスは全てスキップでき、チーム力は相当なスピードで上積みされいくだろうと考えました。そして各ユニットにも4年生だけではなく3年生や2年生にも入ってもらい、若い年次から部の運営に携わることで、それぞれのユニット領域での知識を次に世代に蓄積しやすい仕組みにしました。

私の代で新しく始まったことが、まだあります。「小平通信」と「イヤーズブック」です。チームが強くなるためにはOB・OGの方々とより強固な協力体制が必要ですが、多くの寄付金を頂いているからこそ私達の活動が可能になっているにも拘わらず、感謝の気持ちを表す場面は秋季リーグ戦での活躍ぐらいでした。そこで、より試合を楽しんで頂くために、公式戦時の選手紹介シート、「小平通信」での試合寸評、さらには現役の活動報告として「イヤーズブック」の作成を行いました。これが現在のユニット活動にも引き継がれています。

以上、「ユニット制」を導入した背景や理由を書いてきましたが、一番根本にあったのは、一人ひとりの部員がサッカー部で活動することに対して、多くの「意味」を感じてもらいたいという想いでした。大学に入ると多くの選択肢があります。その中で、決して強豪とは言えないサッカー部を選択してくれた後輩たちに、卒業するとき、「一橋大学サッカー部に入って良かった」と、心から思える経験をしてほしかったのです。今後もユニット制をベースに、もっともっと強くなることを願っています。



vs 日本大学生物資源科学部 於小平 G 平成 23 年 (2011)

戦いを終えて

《平成 30 年度シーズン》
東京都 2 部：5 位 勝 7 敗 4 分



	理科	東京	玉川	帝京	山梨	首都	成城	亜細亜	武蔵
春	○ 3-0	● 0-1	● 1-2	● 1-3	△ 0-0	○ 3-0	△ 0-0	○ 3-1	△ 1-1
秋	○ 3-0	● 0-4	● 0-1	○ 2-1	○ 5-1	△ 0-0	● 0-1	● 0-1	○ 4-1

順位	大学	勝点	勝	負	分	得点	失点	差
1	東京	42	13	2	3	53	20	33
2	帝京	39	12	3	3	37	17	20
3	亜細亜	33	10	5	3	43	21	22
4	成城	31	9	5	4	25	21	4
5	一橋	25	7	7	4	26	18	8
6	玉川	24	7	8	3	33	23	10
7	首都	23	6	7	5	18	23	-5
8	武蔵	22	6	8	4	32	34	-2
9	山梨	9	2	13	3	20	66	-46
10	理科	6	2	16	0	7	50	-43

*前後半の入りの時間の失点が多い。(全失点の半分)

*連敗が3度もあり、敗戦を引きずる傾向がある。



得点力不足、試合前の準備不足も課題だが、

「メンタル面の成熟」が、最優先課題。

・・・今年1月の西松会総会で発表された
「シーズン総括」より

🏆 今、思うこと

中野 正樹（4年 主将）



この1年間、僕が意識していたこと、それは「バランス」である。ア式におけるキャプテンの役割、GM 制度が採用された後のそれは、「勝つチームの雰囲気をつくること」であると考えている。

練習メニューを決めるでも、スタメンを決めるでもないア式の主将に求められることは、部員一人一人にできる限り目を向け、なおかつチーム全体の雰囲気、士気を上げることであったと考えていた。例えばチームに緩い雰囲気が見られた時、最後の円陣で厳しい言葉をかけてみる。連敗が続いて落ち込んでいる雰囲気が見られた時は、サッカーを楽しむことを意識しようと声をかけてみる。自分なりにではあるが、チームの状況を観察した上で、言葉を選んで部員に伝えていたつもりである。

しかし今シーズンの結果から考えると、僕は雰囲気づくりに失敗したと言っている。負けが続く理由もわからないまま、振り返ると対処療法的に、好き勝手に感じたことを喋っていただけのように感じる。失敗の原因は、僕の信条の一貫性の無さだろう。

「サッカーを楽しめば勝てる」

「肩の力をぬいて適当にやるくらいの方が勝てる」

「目の前のボールに執着して結果にこだわれば勝てる」

結果が出ないことに必死になって、現状の雰囲気を変えることで何か違いが生まれるのではないかと考えていた。組織調整型のリーダーシップ、バランス、臨機応変な対応、これらの言葉は、いずれも聞こえはいいが、悪く言えば「ブレている」とも捉えられる。負けが続く落ち込むチームに必要なものは、一貫してブレのない主張をする図太いキャプテンだったのかもしれない。リーダーシップに正解などないのかもしれないが、チームをまとめる立場を経験させてもらったこの1年は非常に良い経験だった。今後の人生に人をまとめる機会があれば、この経験を生かしていければと思う。

文章を読む限り、後悔ばかりのように思われるかもしれないが、そうではない。今4年間を振り返って思い出すのは、仲間の面白いエピソードばかりである。本当にア式に入ってよかったと思っている。これからはOBとしてア式の発展に協力していきたい。最後に4年間支えてくれた同期、先輩、後輩、そしてOBの方々、本当にありがとうございました。

🏆 覚悟と成長

岡谷 真弘 (4年 GM)



「成長の裏には覚悟がある」・・・そう実感した4年間だった。練習をこなすだけの1年間を終え、2年生になる直前、サッカーと本気で向き合う覚悟を決めた。動機は試合に出場できない悔しさ、これだけだった。サッカーと本気で向き合う覚悟、この言葉だけでは実際にどういう行動をとるのかわからない。自分が出した答えは、自分が持っている資源(時間・思考・意識)をサッカーに集中することだった。ピッチの中にいる時間は1日の半分にも満たない。大事なのはピッチの外にいる時間の使い方である。ピッチ外の時間をサッカーに捧げる上で大きな役割を果たしたのが、技術ユニットでの活動だった。

技術ユニットは、チームの戦術や個人の技術の向上を目指すユニットであり、自分は主に相手チームのスカウティングを担当させてもらった。相手チームの過去の試合を分析することで彼らの意図や特徴を明らかにし、対戦時のゲームプランを練る仕事である。結論から言えば、スカウティングをした経験が自分の成長に大きくつながった。それまでの自己中心的な自分から脱却することができ、他人の意図を考慮した意思決定ができるようになったと思う。

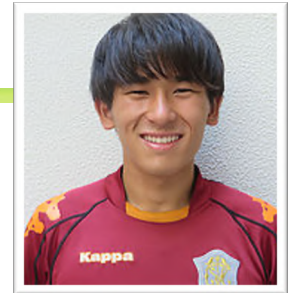
ここで重要なのは、スカウティングをやったことが成長につながったということではなく、自分の覚悟を実践したことが成長につながったということである。自分が持っている資源をサッカーに集中するという覚悟のもと、スカウティングというサッカーに関連する仕事に全精力を注いだことで、それまでとは違った自分を見つけることができた。同じ仕事であっても、甘い考えで適当にこなすだけであつたら何も変化はなかったはずだ。相手の弱点を見つけるため、何度も相手の試合を見続け、1週間のほとんどの時間でパソコンと向き合い続けたことが自分の成長につながったのだと思う。

練習の内容、仕事の内容そのものが人を成長させるわけではない。人が成長するための重要な要素は覚悟をもって取り組んでいるかどうかである。どんなことでも覚悟をもって必死で取り組む、そうすれば新しい景色を見ることができる。それが成長である。後輩たちには「自分がチームを昇格させる」という覚悟を持ってア式生活に臨んでほしい。

最後になりましたが、OB・OGの皆様、4年間、私たちを支え続けていただき、本当にありがとうございました。未熟な私たちが目標だけを見つめて活動することができたのは皆様のご支援のおかげです。昨シーズン果たせなかった目標は後輩たちが受け継いでくれます。目標を達成する覚悟をもって試合に臨む後輩たちをご支援いただければ幸いです。これからも一橋大学ア式蹴球部をよろしく願いいたします。

🏆 イメージと真逆の大学生活

池田 真 (4年)



4年間を振りかえって思うことは、よく真面目に取り組んだなということです。中学2年までは日本の公立中学のサッカー部で、毎日朝練1.5時間、午後練3時間やるような環境で一生懸命サッカーをしていました。それ以降は、韓国のインターナショナルスクールで4年間サッカーをしたのですが、1年の内2月から5月の間みの期間限定の部活でした。厳しいラントレもなく季節的に暑くもない中、だらしない体形でちゃらんぽらんにやっていた感じです。練習後はマクドナルドでビッグマックとチョコレートアイスクリームを食べるような、ア式の部員ならまずありえないようなサッカー習慣でした。

それから大学に入って驚いたことは、食事やトレーニングに対する姿勢や意識の高さです。1人暮らしの人は自炊をし、5時台に起きないといけない人も遅刻をせずに練習に来ていたことに驚きました。この環境の中で周りに刺激され、うまく自分を奮い立たせながら食事や筋トレ、私生活といった面で自分を律し、変わることができたと思います。

サッカー部ではイヤブック・ユニットに所属し、年間結果報告や新歓活動のパンフレットとして使用するイヤブックの作成に携わりました。苦労したことは、レイアウトの作成と計画的に仕事を終わらせることです。白紙のページから新しいデザインを考えることはなかなか難しく、毎年似たようなページになってしまったことは大きな反省です。また作業を計画的に進めることも非常に難しく、毎年新人戦が終わった途端に急激に忙しくなり、確認作業も中途半端になってしまうこともありました。

2年生の頃は告知ムービーの作成を行いました。玉水と田尻と協力して、毎週どの部員を取り上げて、どんな内容にするかを考えました。苦労したこととしてはビデオの中身が毎回似たような形になることと、毎週水曜か木曜までにビデオを作り上げないといけなかったことです。

イヤブックや告知ムービーの作成にあたり感じたことは、ゼロから新しいものを作ることの難しさです。なかなか良い案を出したり創造性を働かせたりすることができなかったですが、その中でユニットのメンバーと共に何とかより魅力的なものを作る努力をしました。サッカー以外の部分でも学ぶことができたこと、困難な中でも協力して1つのものを共に作り上げるということを社会人になっても活かしたいと思います。



ア式での4年間

大内 健太郎 (4年)



振り返ると、あっという間の4年間でした。

GKとして、先輩に何とかくらいつこうともがいた1年生、

リーグ戦に初めて出場し、成長を実感できた2年生、

36年ぶりの1部の舞台で、確かに得た手応えと絶望を味わった3年生、

自信があったにもかかわらず、不完全燃焼に終わった4年生。

ア式に所属した4年間では、良いことも悪いことも多くのことを経験し、

最高の仲間たちに巡り会えたことは、自分の人生において最大の財産だと思います。

現役もOBの方々も、みんな本気でア式が好きで、

こんなにもチームの為に勝ちたいと思える環境は、今までありませんでした。

ア式に関わる全ての人に感謝申し上げます。

個人的な役割に関しますと、私は3年生の時からGKの最上級生として

日々の練習メニューの作成等、GKを統率する立場でした。

月に1度来てくださるGKの望月さんの指導も仰ぎながら、全員が成長できるよう

日々頭を悩ませながら練習を考えていました。その中でも一番苦勞したことは、

グラウンドによって練習内容が一変することです。

小平グラウンドの惨状は皆様ご存知かと思いますが、砂漠化が進み地面が硬いため、

何本かセービング練習を行うと両足が擦り傷だらけになり、試合に支障をきたす事も

多々ありました。人工芝と比べると圧倒的に練習の質・密度が異なってきます。

現在、OBの方々人工芝PJを進めてくださっていますが、それを一番熱望しているのは

GKだと思っています。私もこれから1人のOBとして全力で貢献していきたいと考えています。

また別の課題を挙げますと、ア式全体でのプレーヤー数は最近増加しており、

5チームほどで練習試合に臨むこともありますが、GKの数は3人と少なく、

1日2試合以上こなす事もよくありました。

今現在に至っては4年生の私と根木が抜けたため、2年生の中野ただ1人となっています。

新しいGKの確保はチームが強くなるための最低限のミッションになってきます。

私自身も最大限協力していくつもりですが、OBの方で時間が空いたときには、

ぜひGKの練習に付き合ってもらいたいです。

次のシーズンも1部昇格を目指して厳しい戦いが予想されます。

しかし、後輩たちは必ずこの困難を乗り越え、再び1部の舞台へ返り咲いてくれるでしょう。

私達が閉ざされた1部での、あの夢の続きが見られることを心待ちにしています。



4年間を終えて

大山 達也（4年）



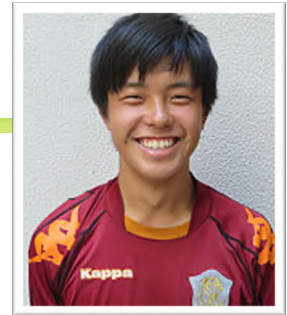
私が担当したフィジカルユニットは名前の通り、部員たちのフィジカル面の強化と管理を目的とする組織で、トレーナーである並木さんや金澤さんの力を借りながら、体幹・アジリティ・筋トレ・ランといったフィジカル面を強化するトレーニングのメニュー作成、食事や疲労度チェックによるコンディション管理、ケガの予防や管理、そしてフィジカル面の情報の共有などが仕事になります。ユニット長になった4年目、私がやっていたことは、毎日の体幹メニューの作成と並木さんや金澤さんとの情報共有、トレーニングの方針決めでした。1年の時、詳しいこともわからない中でムキムキになれそうとか安易な気持ちで入ったユニットではありましたが、ムキムキになれたかは別にして実際学べることは多く、充実したユニットでした。



4年間を終えて思うことは色々ありますが、ア式って良いチームだったなって思います。練習見学で雰囲気が良いと思えたし、入部後も応援とか刺激的なイベントとか魅かれる部分は多く、何よりもチームとして一体感があるのが好きでした。サッカーはチームスポーツなので、仲間同士で良好な関係性が築けているかどうかは重要なことだと思っていますが、皆が仲が良いという意味に限って言えば、非常に優秀なチームでした。甲虫の飼育が趣味でネットスラングを多用しメンタル弱者で「死にてえ」と口にする男と、高級車を乗り回し女遊びと酒飲みを日課とする男が、2人で長期ヨーロッパ旅行に行くというのはア式ならではないかと思います。仲が良い分、特に自分たちの代は厳しさが足りなかったかもしれませんが、後輩たちは厳しい雰囲気作りも意識してはいるらしいので、より良いチームになることを期待するばかりです。あんなにも楽しく、熱い気持ちにしてくれたア式に感謝です。

ア式での4年と今後への期待

小野間 顕 (4年)



この4年間はA2で出場することが多く、自分自身のサッカーの多くの思い出はアイリーグや土曜日の練習試合です。A2で活躍することは私にとっての大きな喜びでしたが、同時にトップチームで出られない悔しさも抱えながら長い間プレーをしてきました。トップチームで活躍することが全てではないとしても、このチームの核であることは間違いありません。その軸は今後もぶらしてはいけないと思います。ただそう思う一方で、最近のスポンサー獲得の活動などチームに新しい動きが出てきて、プレーだけではないチームへの貢献の形が広がってきているのは、いい流れだと思います。トップチームで出ている選手だけでなく、多くの選手に様々な活躍の場があり、そこで部員一人一人の力が倍増され、ア式という団体がより密度の濃い強い組織になっていくと信じています。

次にユニットの仕事についてです。私が所属した庶務ユニットは、練習グラウンドの確保や練習試合のマッチメイク、サタデーリーグ関連・審判関連の業務など、部の運営に関わる多様な仕事が集められたユニットです。昨シーズンからの変更としては、これまで関東リーグ主催のアイリーグに参加していましたが、今年度から規定が変更となり一橋の参加が難しくなりました。関東リーグ所属の上位校を始めとするレベルの高い相手との試合が組めなくなったことは、土曜日に試合を行うトップチーム以外の選手としても庶務ユニットとしても非常に残念でした。

私は庶務ユニットで審判関連の仕事と人工芝グラウンドの確保を担当していましたが、普段使っている府中の河川敷のグラウンドや昭島のグラウンドは、長期休みの期間になると各市内団体が優先され、市外団体である一橋は予約が取れず、8月は1日か2日しか人工芝で練習できないという状況までありました。授業がなく集中してサッカーに取り組める期間に人工芝で練習できないことは、人工芝グラウンドを持つ他大学に対して大きなハンデを負うことになります。今後一橋が関東リーグを目指す上で、安定して1年中利用できる人工芝グラウンドの確保は欠かせません。後輩たちが毎日人工芝の上で練習し見違えるように成長していく姿が、近いうちに見られることを願っています。





「学生主体」

加賀 平朗 (4年)



皆さんはア式を紹介する時にどう説明しますか。おそらく多くの人は「学生主体」という言葉を使用するのではないのでしょうか。

この「学生主体」の組織運営と組織強化の2つについて思うことを書かせてもらいます。

まず、組織運営について。

ア式の組織運営における代表的なものはユニット制です。部員全員がユニットごとに与えられた仕事を行い組織運営に関わっていく制度で、まさに「学生主体」と言える特徴でしょう。私自身は庶務ユニットに所属しサタデーリーグのマッチメイクや試合記録の作成を行ったり、関西遠征・夏合宿・追いコンの宿泊先を決める仕事をしていました。どちらも1人で全て行う仕事なので自分のミスが組織に多大な迷惑をかけることとなります。実際に1度、サタデーリーグの試合を自分の確認不足で中止にさせてしまったことがあります。一方で裏を返せば、それだけ裁量権のある仕事だとも言え、自分次第でいくらでも改善させることができます。その例が宿泊先です。今までの関西遠征の宿泊先は、安いというだけでアクセスが悪く、不満が大きい宿泊先でした。そこで昨シーズンは多少値は張るものの交通の便が良い宿泊先にしたことで、部員の不満を解消することができました。このようにユニット制は主体的に組織を動かすことができる素晴らしい制度であり、「学生主体」のア式らしい制度だと思います。

次に、組織強化。つまり、どのようにア式を強くしていくかについてです。

ア式には常駐のコーチもいなければ、スポーツ推薦もありません。戦力を強化するためには、自前で育てていくしかないのです。そのために存在するのがGM制度です。サッカー面における「学生主体」と言えば多くの人がこの制度を挙げるのではないのでしょうか。しかし私が4年間を通して感じたのは、この制度は本当に「学生主体」と言えるのかということです。GM制度、そのものを否定している訳ではありません。ただ監督が大人から学生に代わっただけで、今までの高校サッカーと本質的にはあまり変化がないと感じます。もちろん能動的に練習に取り組んでいる人もいますが、受け身の姿勢で練習している人の方が多いのが現状です。部員全員がGMのように自分以外の誰かにアドバイスをし、練習の意図を考え、取り組む。それが、サッカー面において本当の意味での「学生主体」なのではないのでしょうか。これを実行することが難しいのは百も承知です。しかし、ア式が今後本気で関東昇格を目指すなら、乗り越えなければならない難題だと思います。

「学生主体」は素晴らしい面もある一方で、当然ながら課題もあります。

けれども後輩たちが良い伝統を引き継ぎつつ、その課題も乗り越えて、より良いア式を作り上げていくと信じています。今後はOBとしてア式の発展に貢献していきたいと思います。4年間ありがとうございました。

🏆 広報ユニットの改革

神藤 悠斗 (4年)



私が一橋大学ア式蹴球部の広報ユニットで担当した仕事は6点ある。順に、それぞれの仕事内容を振り返っていきたいと思う。

① Twitter

リーグ戦など公式戦の情報と試合速報、公式戦以外の活動報告、イベント告知、ブログ・コラム更新といった部の活動を報告するものと、こちらからフォローすることでフォロワーを獲得することや、他団体の投稿を拡散することによって、お互いを盛り上げるようなことも行っていた。反省としては Twitter での企画が少なかったことや報告の即時性がなかったことが挙げられる。一方、告知ムービーやハイライトなどの動画コンテンツを自動再生できるようにし、より多くのフォロワーにコンテンツを見てもらえるようにした。

② Facebook

Twitter と似ているが、コンテンツを見ていただく層が年配の OB・OG や保護者の方々など特定の層にとどまっていることから、新たなフォロワーの獲得のための宣伝や広告が今後必要。サイトへの移行・インスタとの提携は、Facebook コンテンツをより多くの方々に見てもらうため、有効であった。

③ Instagram

こちらは誕生日投稿やストーリーなど Instagram 上の企画が盛り込まれ、フォロワーが満足に思うコンテンツを提供できたと考える。しかし他の SNS よりフォロワーが少ないため、増やしていく必要がある。

④ ブログ

それまでは、お題が設けられてなく似たようなブログが頻発していたため、複数のお題から選ぶ方式に変えた。また更新日を統一し、提出方法も期限遅れが出にくいような方法に変えた。後述するコラムとの兼ね合いで、ブログが内輪向けか対外向けかという位置づけが難しかった。

⑤ コラム

チーム内の対談や選手紹介など、外部への情報発信が主である。投稿数・投稿内容ともに良かったのだが、投稿時期に偏りがあったのが反省点である。1か月に1回ほどで投稿を行い、新たな企画も生まれると良い。

⑥ 試合速報アプリ

新たに「PLAYER!」というアプリを導入し、公式戦の試合速報として、より多くの情報を提供できるコンテンツとなった。

以上6点が、私の担当した仕事である。

すべて担当した当初から改革を行い、より良いクオリティのものへと変えた。

広報活動のやり方に正解はないので、今後も新しい企画をどんどん考えていってほしい。

サッカー漬けの日々

塩月 航輝 (4年)



朝練の日。6時半に起床。全然アラームに気づかないので、6時から1分刻みでセットしていた。起きたら、まず飯の準備。米をよそって1品か2品準備し、キッチンのシンクの延長の銀の所で食べる。時間があるときはご飯ライン用に、しっかりこたつでランチョンマットを敷いて食べる。食べ終わったらシャワーを浴びて、そのまま練習着で家を出る。原付で小平まで20分、郷土まで15分。途中で後輩を追い越していく時は、こっちの方が速いので挨拶しないけれど、信号で捕まって追いつかれた時などは、何となく気まずい。

練習場に着くと、もう既にボールを蹴ってる人、ベンチに座って話してる人、いろいろだ。自分は10分くらい話して、鳥かごやシュート練習に向かっていった。少しして集合がかかる。主将の正樹が一言話し練習が始まる。自分の練習への達成感は、どれだけうまくプレーできたかというより、どれだけ疲れたかだったと思う。もっと頭を使ってサッカーをすればよかった。

練習後は、小平の「武」や府中本町の「厨」など行きつけの炭水化物屋さんに行き。翌日が試合でなければ天ぶらも食べる。天ぶらは男気じゃんけんで会計する人を決める。自分たちの代は最後の方は感覚が狂っていて、1万円単位でも普通にじゃんけんしていた。おかしい。

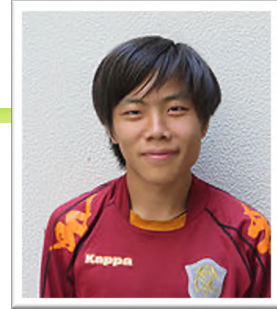
*うどん屋「武(たけ)」・小平の旧キャンパス正門を出て左すぐ



一旦、帰宅し着替え、授業に行く。教室には、もう同期か後輩がいるので隣に座る。みんな授業を聞いていない。用具ユニットがアップロードしてくれた先週末の自分たちの試合を観ている人が少々、YouTubeを観ている人が少々、アマゾンプライムを観ている人が少々、寝ているやつが大半。そのコマが終わると、単位がまだたくさん残っている人は、もう1コマ授業を受けに行く。自分は友達の家に行くか、ジムに行く。ゲームか筋トレをし、夕飯食べ、8時頃には帰宅。そこからテレビを観たりして10時頃にはベッドに行く。3年半くらいずっとこんな生活でした。そんな日々が、将来なにかの糧になれば嬉しいと思います。

🏆 ハッピーエンド

重宗 大貴 (4年)



恐らく、自分は「ハッピーエンド」を迎えたのだらうと思います。もう出られないと思ったリーグ戦最終節に途中出場。念願だったリーグ戦での初ゴールを決め、チームは大差でライバル武蔵大学に勝利。こんなことを言うと底が浅い人間だと思われそうで嫌なのですが、事実引退した2週間くらいは悦に浸っていたし、その時のハイライト動画も何回見たかわかりません。それほどまでにリーグ戦でのゴールは自分の悲願で、ア式における最大の夢でした。

ただ引退して月日が経つにつれて、また違った感情がわいてきました。

自分の行いは組織をより良くすることに繋がっていたのだろうか、という後悔です。

個人の選手としてスタメンを目指してチームの勝利に貢献するというのは、ア式にいる全員が当たり前持っている価値観です。自分はそんなストイックな集団の中で、最後に機会を手にてきて喜びを感じていました。ただ、そこに著しく『ア式という組織の一員』としての視点が欠けていたことも確かでした。

いつだったか、同期の玉水に

“こうして楽しく4年間大学サッカーができていことに何か恩返しとかする気はないの？”と練習後のダウンの時に言われたことがあります。当時は何も思いませんでしたが、今は心に突き刺さっています。その時の自分は「リーグ戦で点を取る」という目標を追いかけるのに夢中で、ア式という組織がどうすればより良くなっていくか、自分たちが何を残せるのか、という4年生ならば考えていなければいけないことを放棄していました。自分はイベント・応援ユニットの活動をしていて、三商大戦や月ごとのレクリエーションの企画などを担当していましたが、特にチームのためになるような企画・変革を生み出すことは、最後までありませんでした。

自分たちが所属する期間は4年という限られた時間ですが、

ア式はそろそろ100周年を迎えるほど歴史ある組織で、さらにそれが続いていくという視点を持っていませんでした。自分が取った1点は、ア式がリーグ戦で取ってきた何百・何千点の中の1点に過ぎず、ア式の歴史をまとめた「ア式年表」なんてものがあつたら、きっとそれに載るようなものではありません。賛否両論あると思いますが、今後ア式を見守っていく中で、本当の「ハッピーエンド」は、風化していく選手個人としての活躍の記憶ではなく、自分が全力でより良くしようとした組織が成長して、そこに過去の自分の行いをみた時なのではないかなとも感じています。ただ幸いなことに、後輩たちの中にそういった視点を持っている人がたくさんいて、率先して自分たちの引退した後のア式までも描こうとしています。自分もOBの立場から、そんな変わっていくア式を応援していきたいと考えています。

🏆 ごーる

関澤 勇人 (4年)



会計ユニットに所属しておりました、関澤勇人です。

まず、OB・OGの皆様方のご支援がありまして、4年間ア式蹴球部での活動を続けられたこと、大変感謝しております。ありがとうございました。今後とも現役へのご支援の程よろしく願いいたします。さて、4年間を振り返っていくということですが、熱い内容や深い話は真面目な同期が書いてくれていると思うので、私は自分が決めてきたゴールのベスト3を書いていこうかと思えます。私はリーグ戦に出場することが出来なかったため、多くの方にとっては“そんな試合知らねえよ”といった内容になってしまいますが、箸休め的な感じで読んでくだされば幸いです。

◆3位：2016年3月 練習試合 vs 学芸

アミノバイタルカップ1回戦前日の練習試合でした。

カウンターでハーフラインから駆け上がっていき、玉水がゴールエリア左からお膳立てのパスをくれ、キーパーの逆をついてニアにダイレクトで流し込みました。この試合でゴールを決めて、次の日に初めてトップチームのベンチに座れたので、とても記憶に残っています。

◆2位：2015年8月 Iリーグ vs 國學院

1年生の時のゴールでは、これが個人的には印象深いです。

青木さんがセンターサークルから前にボールを流してくれゴールまで30mくらいありましたがダイレクトで打ったところ、相手キーパーは驚いたのか何なのか、威力があまりなかったのに片手で弾き、ゴールに入っていました。この日は全体応援で、皆が応援してくれる中で決めたゴールの快感は半端なかったです。ちなみに、この試合では1ゴール1アシスト。同じ週に行われた、もう1試合のIリーグでも1ゴール決めていて、今振り返ってみるとサッカー人生で一番調子が良かった週でした。

◆番外編：2017年2月 三商大戦 vs 大阪市立

歴史ある三商大戦で決めたゴール、ではなくアシストのため、番外編という形で書きます。

小平での三商大戦ということでピッチの状態が悪く、風も強くて砂嵐が起きている、そんな悪条件だったと記憶しています。左ペナルティエリア辺りでボールを持った私は中に切れ込み、右足でクロスを上げると思わせてのキックフェイントで縦に、相手DFのアンクルをブレイクして中にいる田中才揮へクロス。田中は、お腹かどっかに当ててゴール、という煮え切らない結末でしたが、綺麗にアンクルブレイクが決まったことが脳裏に焼き付いています。

◆ 1位：2016年5月 練習試合 vs 帝京

何でもない練習試合でのゴールなのですが、このゴールが、これまでの人生を通してのベストゴールです。小平での試合ということで、例に漏れずピッチの状態は悪かったのですが、ハーフライン手前からの加賀のフィードに走り込んでいき、謎の跳ね方をするボールを見極めペナルティエリア右からダイレクトで打ったところ、60度の扇形位の弧を描き、ゴール左上に吸い込まれていきました。ちょうど太陽とボールが被ってしまっていて、最初は決まったのかどうか分からず、喜びきれなかったことを覚えています。

以上が、関澤のゴールベスト3となります。

部活を引退した今となってはなかなかゴールを決める機会がなく、あの快感を味わえないことに苦しんでいます。再びサッカーを始めゴールで快感を得るか、はたまた別の何かを始めて快感を得るか悩みどころであります。“これめっちゃ快感得られるぜ”といった何かをお持ちの方がいらっしゃいましたら、是非紹介していただきたいです。



🏆 広報・技術ユニットの活動

田尻 一真 (4年)



私は都立国立高校出身で、ア式では昨シーズン背番号8をつけさせて頂き、主にFW、MFとしてプレーしていました。所属ユニットは広報ユニットと技術ユニットでした。

私が広報ユニットに入ったきっかけとしては、1つ先輩の船越さんが作っていた告知ムービーに惹かれ、自分もやってみたくと思ったことでした。

担当していたのは、告知ムービーや試合ハイライトの作成、集中応援日の告知・資料作成です。また、新たな試みである東京工業大学との定期戦を実現させることができました。

この「商工戦」は、私が4年間のユニットの仕事の中で最も注力した仕事で、プレーヤーのモチベーション向上を図ること、OB・OGや保護者の方々に我々への理解や関心を高めてもらいより多くの方に応援してもらおうきっかけを作ることを目的に掲げて企画しました。私が3年の時から進めてきましたが、「活動停止処分」という予期せぬ事態により、一度は頓挫しかけました。しかし諦めずに東工大との協議を進め、4年次に実現させることができました。

「商工戦」はゼロからのスタートであり、前例がないため、何から決めるのか、どのように進めるのか、どうしたら意味のあるものになるか、うまく周りを巻き込んでいくにはどうしたらよいか、全てが手探り状態でした。100点満点の内容とは程遠いもので、たくさんの反省点が浮かび上がりましたが、それらを来年度以降の後輩たちが少しずつ改善して、より良いものに、そして新たな伝統にしていくことに期待したいと思います。新しい取り組みを主体的に作り上げる経験ができたことは、とても貴重であり、こうした経験ができることは、一橋大学ア式蹴球部という一人一人の主体性により成り立つ組織の強みだと思います。私自身、新たな伝統の土台を築くことができたことは、とてもうれしく思います。

次に技術ユニットでは、4年次から新たに設立された分析班として、私は主に自分たちのチームの分析を担当しました。具体的な仕事内容としては、週末の公式戦やトレーニングマッチの動画を見て、ビデオミーティングで話し合うべきシーンを各カテゴリーの課題や目標に合わせてピックアップし、ミーティングを取り仕切ることでした。チーム全体の状況や課題を把握し働きかけることができると共に、個人的にも自分のプレーを見つめ直すことができ、自分の成長にもつながったと思います。



最後に4年間を振り返ると、決して満足する形で終われたとは思えませんでした。チームとしては1部復帰を掲げて臨んだ最後のシーズンは思うように結果が出ず、個人としても納得のいくプレーは、ほとんどできませんでした。さらに夏の中断期間に前十字靭帯断裂と半月板損傷という大ケガをし、後期はまともにプレーすることすらできませんでした。こんなにあっけなく学生サッカーが終わってしまうのかと、後悔と不甲斐無さで立ち直れない時期もありました。ケガをした瞬間の絶望は今でも鮮明に覚えています。

しかし、決して悪いことばかりではありません。むしろ4年間を振り返れば、良い思い出の方がたくさんあります。最後まで諦めない姿勢を貫けたこと、1部昇格の瞬間に立ち会えたこと、リーグ戦という舞台で本気で勝負できたこと、たくさんの尊敬できる人に出会えたこと、ユニット活動でいろいろな経験ができたこと、良い先輩後輩に恵まれたこと、最高の同期と楽しいサッカーに打ち込めたこと、多くの方々に支えられたことなど、挙げればきりがありません。一橋ア式蹴球部で4年間を過ごせたことを誇りに思います。本当にありがとうございました。



「苦楽」

玉水 寛人 (4年)



選手としての4年間は、刺激的な日々だった。

高校時代よりレベルの高い環境で、優れたコーチの指導を受けながらサッカーをするのは純粋に楽しかった。特に1部で戦った3年目の前期は本当にワクワクしたし幸せだった。仲間との意思疎通に成功し、プレーがうまくいった瞬間は嬉しくて仕方なかった。一方、その後の活動停止を経て、再起を図ったはずの最後の1年は、正直とても苦しかった。チームが勝てない中、自分は怪我ばかりでコンディションを落とし復帰してもるくに点も取れず自分らしいプレーもできなかった。理想や想定とはかけ離れていた。また4年生の1人として、勝てる強い組織を作る難しさを痛感させられた。チームの歯車がどこか合っていないような感覚を持ちながら、それを改善する術を見つけられなかった。

所属する広報ユニットでは、より応援される組織になるべく、

ア式の魅力や価値の発信活動の向上に努めた。毎年広報は既存の活動の改善にとどまらず新たな取り組みに挑戦している。今年の主な新しい活動としては、「商工戦」の開催やタオル・うちわ等のグッズ作成が挙げられる。加えて2018年5月頃にユニットから独立し、有志を募る形でスポンサー獲得チームを立ち上げた。昨今の大学サッカー界のスポンサー獲得の流れに乗り協賛企業の獲得による資金源の拡充と応援層の拡大を目指すものである。企業のリストアップや営業資料の作成を進めたが、大学の協賛許可交渉が難航し(大学を動かしていない)、企業との本格的な交渉には入れていない。

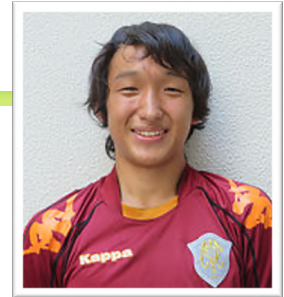
しかし、あるOBの紹介でアビーム様と繋がることに成功しており、今後の進展が期待される。ユニフォームの胸にどこかの企業名が入る日を楽しみにしている。また、この活動に連携して地元での知名度や好感度向上を目的に持つボランティアチームも立ち上がり、精力的に活動した。結果、数名の地域の方々がリーグ戦に応援に来てくださった。活動の意義を考えながら、今後も続けていってほしいと思う。

こうしたピッチ外での活動を通じて最も感じた苦労は、仲間、特に後輩との関わり方である。サッカー以外の活動にあまり関心や情熱のない部員も当然いた。後輩に仕事の重要性を理解させやる気を出してもらうために頭を悩ませた。大事なのはどんどん仕事を任せること、丁寧かつマメにコミュニケーションを取ることだと感じた。後者はサッカーにおいても大事なことだ。ア式に入って最も学んだことかもしれない。発信する機会がないだけで、誰もが言い分を持っている。仲間の思いや考えは聞いてみないと分からない。聞かずに勝手に決めつけてしまうと、信頼関係は築けない。言い分を共有するだけでもスッキリするし、その言い分に基づいて何かを変えられれば部員同士の関係は良くなる。もっともっと組織を良くするために恥ずかしがらず、恐れず、仲間と議論すれば良かったと、今さらながら思う。



「後悔」

戸井 純平 (4年)



部活を引退した今私が率直に思うことは、ピッチ内外ともに、もっと貢献したかったという思いです。ピッチ内では悔しさを嫌というほど味わった4年間だったと思います。最後まで自分が思い描いていた活躍はできませんでした。特に今年の1年は得点が非常に少なく、そのチャンスをほとんど作ることができなかったのは選手としての後悔です。正直に言えば、もっと個人として数字を残したかったというのが本音です。しかしこういった悔しさも含め、ア式では様々な感情に向き合わなければいけない4年間でした。それが自分を成長させてくれたのだとも思っています。

ピッチ外では、用具施設ユニットを4年間担当し、最後の1年はユニット長を務めました。また同じく最後の1年は、技術ユニットで相手チーム分析も担当していました。前者に関しては同じユニットの中村と根木が素晴らしい説明をしてくれると信じて、私は技術ユニットでの自分自身の活動を振り返りたいと思います。

私が担当した試合は、アミノバイタル杯の日大戦、リーグ戦の前後期東大戦の3試合です。結果を見ればわかる通り、3試合で0得点13失点。全く結果が出せませんでした。特に後期の東大戦では相手に比べ、ボールの奪いどころ、奪ったボールの前への運び方、ビルドアップでのボールの動かし方、そのためのポジショニングなど、挙げ始めたらキリがありませんが、全てにおいて力不足を痛感しました。自分の中で具体的なプレーのレベルまで突き詰めて考えきれていなかったため、その週の練習の中で戦術確認を行う際に、いいイメージを共有しきれず、チームとして相手をどのように攻略するかということが、東大に比べ未熟だったのだと思います。これは、自分がサッカーを考えるとということに関し未熟であり、普段から突き詰めて考えていなかった事が大きな要因でした。もっと当時からサッカーを観て深く学ぶ必要があり、それにより自分のプレーもさらに向上できたかもしれなかったと後悔しております。しかし、同時にサッカーの難しさ、奥深さ、面白さを、最後の1年で今まで以上に実感できたのは、非常に良い経験でした。来年度のGM高山が目指すサッカーにおいて「考えること」は非常に大きなテーマだと思うので、現役部員がサッカーについて深く学び、常に考え続けてプレイしてほしいなど、1人のOBとして勝手ながら思っております。

私はこれから社会人になりますが、様々な角度からサッカーに携われた4年間の貴重な経験を生かし、これからはサッカーと同様に熱量を注げるものを見つけ、全力で取り組みたいと思います。それと同時に、いつか再び何らかの形でサッカーに本気で関わっていきたいと思っております。最後になりますが、非常に素晴らしい4年間をア式で過ごすことができたのは支えてくださる多くの方々のおかげです。心より感謝しております。ありがとうございました。

🏆 4年間を振り返って

中村 祐樹 (4年)



小学生の頃にサッカーを始めた自分にとって、
日常的にサッカーをした最後の4年間を振り返ろうと思う。

まずユニット制の中で、私は用具・施設ユニットに所属した。個人的に担当したのは、ユニフォーム・スウェット・アップ着等の購入と管理である。業者の方とメールで連絡を取り、数と値段を確認して発注し、届いたら部員に配布するのが主な仕事内容だ。正直に言うと自分の担当した仕事については失敗ばかりだった。定められた期限までにユニフォームを発注せず、メール管理も雑だったため、やり取りがうまくいかないことが多々あった。迷惑をかけてしまい申し訳ない。その他のユニットの皆の仕事としては部室のゴミ箱の管理、グラウンドの草むしりがあった。つまり、部員が使う場所の管理である。



他のユニットの仕事領域になるが、この部活特有の取り組み、通称「食事ライン」の意義について考えたことがある。入部した当初は「プロみたいでカッコいいな」と思ったし、高校の同期にこのことを話すと、「めっちゃ意識高いな」なんて言われたものだ。しかし、本当に意識高く「食事ライン」に向き合っているだろうか。始めに断っておきたいのは、食事の記録をラインにあげる行為そのものを否定しているのではない。ただ、現行の「食事ライン」には問題があると思う。部員なら分かると思うが正直面倒くさい。なぜ面倒くさいかと言うと、写真をあげなくてもうまくなる体を作りたければ栄養を考えて食べるし、実際、みんな栄養には気を使っていた。学生の主体性を掲げて運営する当部活において、写真をあげることを強制されるのは、そのポリシーに矛盾していると思う。加えて写真だけで栄養を判断できるプロフェッショナルは、この部活にいない。やるなら材料、含まれている栄養素まで徹底的に書き出すべきだと思う。現実問題、そこまでのリソースを食事に割くことはできないと思われるので有志で行うのが良いと思う。1人暮らしで自炊する人にとっては有用であるだろうし、主体性も担保されると思う。

1部昇格をかけて闘った、今シーズンのチームの戦績について語ろう。

チームの戦績が振るわなかった理由は、細かく分析すれば戦術的な問題も絡んでいるだろう。しかし東京大学と共に昇格を決めた帝京大学に1度は勝利していることを考えれば、実力的には昇格してもおかしくなかったと思う。実力が拮抗し合う中で互いが全力を出し、1つのプレーがきっかけで精神的な差を生み出し勝敗を分ける。サッカーは、そういうものだと思う。だから、何が悪くて昇格できなかったと今言っても仕方のないことだと思う。大切なことは、それでもなお継続して努力し続けて、1つ1つの試合に向き合っていく他ない。

個人としての振り返りをする。

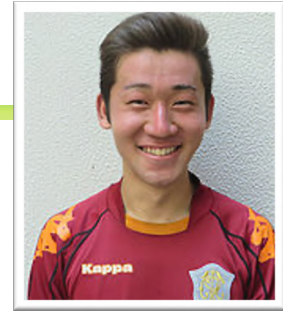
出場時間は、3年生までと比べれば多く、ほぼ毎試合途中出場という形でピッチに立った。しかし精神的な話をすると、ラスト10～15分間の出場で何か結果を残さなければならないというプレッシャーを感じていた。期待されるチームを救える活躍ができたかということ、胸を張れないと感じることも多かった。しかし、こういう苦悩を味わうことができたのは大学以前ではなかったことなので、相対的に充実感があったシーズンだった。これは新たに増えたビデオ分析班によってミーティングが効率化され、チームの目標が毎週明確に分かるようになったおかげでもある。非常にありがたかった。

自発的に毎日練習に取り組むことで、実力の向上が他者との比較なしでも実感でき、モチベーションを高く保ちながらサッカーに取り組むことができた。何より大学以前の経験と比較してチーム規模が格段に大きくなったので、勝利時の喜びも迫力があって圧倒されたことが印象に残っている。そしてサッカーを、より好きになることができた4年間であった。



ア式部員として

西本 優壱 (4年)



戦いを終えて、引退から3か月がたった今、4年間の部活生活を振り返ろうと思います。まず、サッカーを続けられるように、これまで僕を支え続けてくれた家族に、共に戦った先輩・後輩・同期のみんな、運営をはじめ大学サッカーに関わるすべての人に、何よりも、このア式蹴球部の歴史を作り、発展させ、サポートし続けてくださっているOB・OGの皆さまに感謝の気持ちを伝えたいと思います。そして、これまで17年間続けることができたサッカーというスポーツに出会えたこと、選手として続けられたこと、その環境にいられたことを幸せに思います。

ア式での4年間は本当にたくさんの経験がありました。2年の時の1部昇格から、翌年の活動停止まで、天国から地獄を経験したといってもいいかもしれません。ただ、どのシーンにおいても常に全員がチームのために全力でした。チームのために全員が動けるというのは、お互いを信頼し合っているからこそだと思いますし、そのチーム感も我々が一橋ア式であればこそでしょう。

個人としても学びと成長の4年間でした。3年までは1度もベンチ入りしたことがなく、リーグ戦とはほとんど無縁でした。しかし4年次始めの関西遠征で、最後のシーズンはリーグ戦のメンバーに入るという目標を立て、期間ごとの明確なゴールを設定したことが自分の中での大きなモチベーションとなり、強くそれを意識するようになりました。夏に同じポジションの怪我人が重なったことがきっかけでA2に入ることになりましたが、そこから定着してカテゴリーの中での信頼を得られたことも、目標を意識して成長してきたことで自分の強みに自信が持て、より考えてプレーできるようになったからだと思います。リーグ戦に出場することはかないませんでした。定着してベンチ入りできるまでに成長できたことにはB2・B1・A2それぞれでのきっかけがあり、それを作ってくれたチームメイトに本当に感謝しています。

最後に、ユニットについて述べたいと思います。自分は1年の頃からイベント・応援ユニットに所属し、最後のシーズンは同ユニット長を務めました。仕事は文字通り、イベントの開催運営とチーム応援の2つがあり、応援に関しては、主にチーム応援歌と個人応援歌の管理を行っています。次にイベントについてですが、ア式には本当に多くのイベントがあります。飲み会や食事会、部員全員での運動会や新勤イベント、夏合宿や関西遠征に至るまで、常にたくさんの仕事があり、スケジュールの管理と企画をユニット全員で分担して行ってきました。

イベント・応援ユニットは、技術やフィジカルのユニットなどとは違って、直接的にサッカーのプレーに関わるものではありません。ただ、我々の果たす役割はチームの雰囲気作り、チームの一体感という面において非常に重要なものだとして認識しています。試合において苦しい時に踏ん張れるチームは、お互いのことを信頼しているチームです。そして信頼するためには、お互いのことをよく知っていなければなりません。ただ、総部員が70人を超え、その全員についてよく知ることはかなり難しくなっています。それでも、本当にチーム全員が信頼し合い一体感を生むという、いわば一橋らしさを実現するためのお手伝いをするのが我々の役割なのです。さらにイベント・応援ユニットの仕事はチームのスケジュールに大きく影響し、また動かすお金も大きく、かなり責任のあるものです。完璧にこなしたとは言いきれませんが、少しでもチームの役に立てたかなと思います。

かけがえのない経験をたくさんさせてくれた一橋大学ア式蹴球部の、これからの益々の発展を祈っています。そして、これからはOBの立場としてア式を応援し、サポートし続けていきたいと思っています。駄文ですが、お読みいただきありがとうございました。



🏆 反省と今後のア式へ

根木 俊輔 (4年)



引退して私が今思うことは、一橋大学ア式蹴球部で活動できて本当に良かったということと、精神的に未熟だったことへの後悔の念です。

4年間を振り返ると、今までのサッカー人生の中で一番濃密なチームであったと断言できます。4年という長いようで短かった時間の中で手に入れられた様々な経験は、何事にも代えられない貴重な経験でした。その一方で、GKへのポジション変更では精神的に折れることも多く、もっと違うやり方があったのではないかという後悔の念があります。そのような自分を支えてくださった先輩方、後輩、そして同期たちには感謝の気持ちでいっぱいです。このような想いをする後輩が二度と出ないように、そして現在進行している人工芝計画が、ア式のGK不足解消をもたらしてくれないかと切に願っています。

私は用具施設ユニットに所属し、主に用具の管理と購入を担当していました。

道具は大切に使用しても、テーピングなどの消耗品は常に買い足さなければなりませんし、ビデオカメラや1つ6000円の公式球を10球単位で発注するなど高額商品の購入もあります。年間で多額の予算を与えられ何不自由なくサッカー部として活動できているのは、OBの方々の金銭的なご支援があるからだということを、身を持って実感するユニットでありました。また私の仕事は備品や用具が足りなくなる前に補充する事が主であり、他のユニットの仕事と比べ、受け身な姿勢での仕事が多いと感じていました。このユニットが、ア式蹴球部に更なる貢献を果たす組織になっていくには、スポンサーの獲得に近いものがありますが、例えば備品などで協力して頂ける企業を探したり、購入価格を下げられないか担当者と交渉してみたりと、能動的な活動も視野に入れなければいけないと感じます。



最後になりますが、あらゆる面においてご支援をしてくださったOBの皆様、誠にありがとうございました。人生においてかけがえのない経験をさせて頂いたア式蹴球部があるのは、OBの皆様のご尽力があつてのものです。これからは支える側として恩返しをさせて頂きたいと考えております。今後とも宜しくお願い致します。

🏆 本気になれる環境

船田 和佐 (4年)



西松会会員の皆様、平素より大変お世話になっております。
私はOBユニットとして、OB総会の運営や小平通信での活動報告を担当していました。引退から3ヶ月半が経過し、現役時代からは想像もつかないような、空虚な日々を送っています。ア式蹴球部での活動が自分の中でどれほど大きなものであったかを感じさせられます。

私がア式蹴球部に入部した理由は、
体育会という組織に憧れを抱いていたことと、高校時代のコンプレックスです。
幼少期からサッカーを始め、小学校・中学校の時は生粋のサッカー少年でした。家ではサッカーの動画をひたすら見て、オフの日には公園で自主練習をしていました。試合で負けたら悔しくて涙を流し、サッカーに対して本気で取り組んでいました。特に中学校の3年間では、一番成長した選手であると自負しています。高校では部活動ではなく、クラブチームに所属していました。詳述は避けませんが地獄のような日々でした。初めてサッカーが嫌いになり、練習の日は朝から憂鬱でした。高校2年の冬に退団しました。

当時は大学受験に備えて辞めるとコーチにも説明し、自分にもそう言い聞かせていました。しかし、“逃げ”であったことは自分でも分かっていました。部活と学業を両立させる友人に対して強烈な劣等感を抱きながら1年間過ごしました。大学受験で成功したら、この選択は正当化されると考えていましたが、そんなことはありませんでした。このような経験から、体育会という自分が本気になれる場所に所属しない手はありませんでした。他の部活に、とも迷いましたが、サッカーが嫌いになりながらも好きな気持ちはどこかにあり、ア式への入部を決断しました。

そんな経緯で入部したア式蹴球部での活動も終わりました。最高に幸せな4年間でした。個人としては、トップチームの公式戦にほとんど出場できず、A2・B1・B2のチームで2年間を過ごしましたが、上のチームに昇格するにはどうすればいいか、どうすればチームが勝てるのか、本気で考えました。プロのサッカー選手になるわけでもない我々が、ア式蹴球部で4年間を過ごすことの意義を考えることもありました。私なりに思案しましたが「人間的成長」が腹落ちするものでした。本気で取り組むことで初めて見える壁があり、個人スポーツではないサッカーで、チームの前に立ちだかる壁に対してチーム全員で力を合わせて乗り越える過程に価値があるのだと考えています。この過程の中で、私は「信頼」と「リーダーシップ」について学んだ気がします。言葉にすると浅く薄く聞こえますが、これらを自分の経験に基づいて学べたことは、私の大きな財産です。最後になりましたが、OB・OGの皆様、4年間のご支援とご協力誠にありがとうございました。



「感謝」

堀本 陽太郎 (4年)



振り返れば、あっという間だった4年間。

週5日サッカーをし、オフの日でさえ温泉に行って疲労をとったり、ジムに行ってトレーニングをしたりと、生活の大半をサッカーに捧げていたのだなとしみじみ思います。そんなサッカー漬けの4年間は、私にとって決して美しく満足できるようなものではなく、自分の弱さを実感することばかりであったように思います。「今のままではリーグ戦に出場することはできない」、私はこの気持ちを4年間ずっと抱いていました。抱いていながら目標を達成するために本気で行動したことが何回あったのでしょうか。勉強よりも何よりも好きだったはずのサッカーにさえ心血を注いだと胸を張って言い切れないことが本当に心残りです。

後悔は尽きませんが、それも含めて本当に貴重な経験をすることができました。

私は新歓ユニットに所属していましたが、東京都大学サッカー連盟の学生幹事としても活動していました。OB・OGの皆様の中にも、学生幹事としてご活躍された方がいらっしゃると思いますが、私が1年生の時は部員の中に学生幹事がいなくて、全く知らない組織で他大学の部員と共に連盟の運営を行うことになりました。いざ連盟の運営を手伝ってみると、試合のアレンジメントから記録の確認、集計、ホームページの更新など、あらゆる業務を学生が行っていることに非常に驚きました。皆様もご存知かもしれませんが、今ではSNSを利用して試合結果の速報、選手やリーグの特集記事を公開していて、以前より業務の幅が広がっていると感じています。1部から4部まで規模の違う様々な大学との連携は骨の折れることでしたが、尊敬できる様々な人との素晴らしい出会いもあり、学生幹事としての活動は自分の財産になりました。

また、この4年間は様々な場面でOB、OGの皆様に支えられている事を実感しました。リーグ戦の会場で、SNSで、部活動停止期間中の毎日で、関西遠征や就職活動でと、あげればきりがありませんが、一橋大学ア式蹴球部は、素晴らしいOB・OGの皆様に支えられた伝統のある部だということを、学年が上がるごとに強く感じました。愛媛の片田舎から上京し、このような素晴らしい部に身を置けたことは私の誇りです。4年間、本当にありがとうございました。



サッカーと真摯に向き合って

松本 絃輝 (4年)



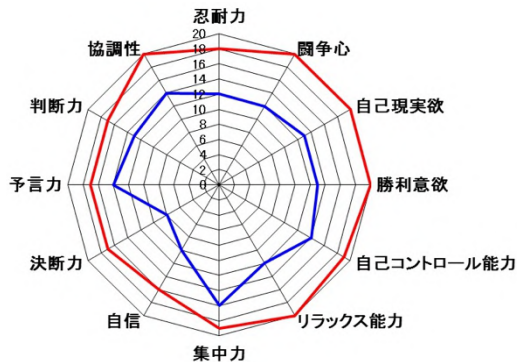
今回は、私が所属したメンタルユニットの紹介と、4年間を振り返っての感想を書かせていただきたいと思います。

メンタルユニットについて

始めに、特にOBの方々に向けて、メンタルユニットの簡単な紹介をさせていただきます。メンタルユニットは、7年ほど前に最終節の試合を落として自力昇格を逃した反省から、大一番でも力を出すために発足しました。活動目的として、次の3つを掲げております。

①試合での実力発揮 ②練習の質の向上 ③人間としての成長

具体的な活動内容としては、心のウォーミングアップとして練習・試合前にリラクゼーションやサイキングアップ(闘志を高めるトレーニング)を行ったり、DIPCAと呼ばれる心理テストを用いて、各部員が自身の心理的特徴の把握と改善をする手助けなどを行っています。



DIPCA：心理的競技能力診断検査

*スポーツ選手の心理的競技能力=通称、精神力を12の項目(忍耐力・闘争心・自己実現意欲・勝利意欲・自己コントロール能力・リラックス能力・集中力・自信・決断力・予想力・判断力・協調性)に分けて診断する。

*左図は、メンタルトレーニングを実施した選手(赤線)と未実施の選手(青線)の比較

メンタルという領域は、その即時性や可視性の低さから効果を実感することが難しいです。しかし古くからスポーツが「心・技・体」という言葉で表されるように、メンタルというものはアスリートにとって大切な要素であるはずで、これからはメンタルユニットが、ア式にとって必要不可欠となるように、微力ながらサポートしていければと思います。

ア式での活動を振り返って

個人としてもチームとしても、人生で最も真摯にサッカーに向き合った4年間でした。大学にある無数の選択肢の中で、体育会でサッカーに打ち込むと決めた仲間たちと切磋琢磨しながら目標に向かった時間の尊さを、引退した今になって身に染みて感じています。一番思い出に残っているのは2年目のシーズンの1部昇格です。昇格を決めた瞬間もみくちやになりながら喜びを爆発させたことは今でも忘れられません。ぜひ後輩たちにも、あの感動をもう一度味わって欲しいですし、これからはOBとしてその後押しをしていきたいと思っています。最後になりますが、両親、同期、先輩、後輩、OB、外部スタッフ含め、お世話になった方々にお礼を申し上げたいと思います。4年間本当にありがとうございました。

🏆 フィジカルユニット食事班

向井 健太 (4年)



4年間のア式蹴球部生活を終えて、思うことはたくさんある。最後まで公式戦に出られなかったが、自分なりに成長したと感じることは多い。幼稚園からサッカーを始めたが、大学に入り初めて自分で考えてチームに影響を与えるということを知った。ア式に入った時点でこのような体制は整っていて、そこに魅力を感じたのかもしれない。

所属していたフィジカルユニットでは、1、2年の頃は与えられたことをするだけで、自分発信のことはほとんどなかった。他のユニットのことは分からないが、どこもそのような感じがした。3年生になってから段々と主体的に仕事をするようになった。チーム全体としてもこの頃から下級生にも主体的に考えてもらおうという雰囲気になっていた。

私はフィジカルユニットの食事班として、選手の食事管理と情報提供をしていた。食事管理は入部した時から既に存在していて、勝つためにやれることは全てやろうという意識から始まったものと聞いている。具体的には、選手一人一人に毎食の写真をラインに挙げてもらい、それをチェックする。ここで選手に意識させるのは、バランスがとれた適切な量の食事を適切な時間にとることである。朝食は9時まで、夕食は21時半までに、試合前は炭水化物を多めにとる、などのルールを決め、オフシーズン以外はずっと行っていた。

また、疲労回復に効く食事、夏バテに効く食事などの情報を集めて記事にまとめ、ラインに流していた。東京都リーグを戦っていく上で必要なフィジカルを、トレーニングだけではなく食事から鍛えていこうという精神で行っている。これは選手の体を強くするという効果だけではなく、生活のリズムを整え、食事班でコミュニケーションを取ることでチーム力が上がるという副作用もあり、いいことだらけである。

結局、食事ラインは勝つ為にといいよりは、負けた時に、どんな言い訳もしたくないから続けてきたのだろうと私は思う。絶対に関東リーグに昇格するという思いで、ずっとやってきたが、最終的には東京都2部で5位。自分はリーグ戦に出ることはなかったが、悔いはない。1部復帰、そして関東リーグ昇格の夢は、後輩たちに託したいと思う。

「なぜ頑張れたのか」

鹿嶋 茜 (4年 MGR)



4年間を振り返り、私はなぜこれほどア式に心惹かれ、マネージャーとして頑張れたのかということを考えました。入部を決めた時、私をよく知る人は大抵マネージャーをやることに驚いていました。私自身、何度もマネージャーは自分に合わないのではと感ずることがありました。それでも4年間マネージャーとしてやってこられたのは、たくさんの人の存在や想いがあったからです。

マネージャーである私は、東京都1部、そして関東リーグの舞台で戦うことの意味を、サッカーのレベルとして体感することはできません。入部した当初は、単純にプレイヤーの頑張りが報われて欲しいという想いでしたが、4年という長い時間をア式で過ごしてきた私にはそれだけではない突き動かすものがありました。私がラストシーズンの1年間、ずっと意識していたのはOBの方々の存在でした。部活動停止の解除に向けて沢山のサポートをしてくださったOBや保護者の方々に対して感謝の気持ちを伝えるためには、1試合1試合全力で闘い、今年1部復帰するしかないと思う強さを感じていました。恐らくこれは他の現役部員とは異なり、私が部活動停止問題で当事者で、沢山のサポートにより今のチームがあると実感していたからだと思います。

また、一緒に部活をしてきた先輩方の存在も大きかったです。想いを受け継ぎ私たちが1部復帰することで、先輩方が築き上げてきたものが正しかったことやア式が素晴らしいチームであることを証明し、また喜ばせたいと思っていました。それはOBや保護者の方々と同じく感謝の気持ちがあったからです。私は1年生の時から、先輩たちの背中を見て話を聞いて、沢山のことを学んできました。1部昇格に対する想い、チームとしてあるべき姿、マネージャーがチームの一員となるために必要なこと、チームの一員としてすべきこと、部活を一緒にしなくなっても私をア式に引き込んでくれた先輩方は、私の原動力であり続けていました。

*卒業式 2017. 3. 21



もちろん日々共に時間を過ごした現役の部員たちも、私に活力を与えてくれました。いつも変なことで笑わせてくる同期には元気をもらっていました、これからのア式を想像してワクワクさせてくれる後輩たちががむしゃらに頑張っている姿は、いつも私を奮い立たせてくれました。

少しだけ後輩たちに伝えたいことを加えると、

「なぜ1部に昇格したいか」と、自分自身に問いかけてみてください。関東リーグでプレーするためでも、家族のためでも、同期のためでも、そのためになら、どんなに辛くても頑張れると思えるなら何でもいいです。自分ではない誰かを喜ばせたいと思うと、自分のために頑張るよりも、人は、より頑張れます。歯を食いしばって頑張らなきゃいけない時、自分が勝利という形で恩返ししたい人を思い浮かべてみたらいいと思います。

最後になりましたが、酉松会を運営してくださっているOBの方々、そして保護者の方々、いつも現役のサポートに尽力してくださって本当にありがとうございます。たくさんの方のおかげで今のア式があり今の私があります。4年間本当にお世話になりました。結果という形では恩返しできなかったことが悔しいですが、今シーズン、頼もしい後輩たちが必ず結果を出してくれると思います。私もOGとして応援したいと思います。



『向き合うこと』

野口 明穂 (4年 MGR)



私は新歓ユニットとフィジカルユニットに所属していましたが、今回は、フィジカルユニットの中のケガ班での取り組みについて書こうと思います。

ケガ班では、ケガを未然に防ぐ取り組みとして、毎週フィードバックを作っています。これは私が1年生の時(約3年前)に始まった取り組みで毎週土日の試合後、選手に疲労が溜まっている身体の部位などを答えてもらうアンケートをもとにして作っています。これによって練習の強度や練習環境(芝・土・雨の後などでグラウンド状況が悪い小平など)とケガ・疲労が溜まる身体の部位の関連性を明らかにしてきました。

その結果ケガを未然に防ぐ取り組み・グラウンド状況が悪い練習の日には捻挫予防のテーピングを呼びかける、きついラントレの後には腿前・腿裏のペアストレッチを呼びかける・などの取り組みが可能となり、以前より、さらに選手に寄り添ったサポートができていると自負しています。

LINE で部員にアンケート

背番号 *

回答を入力

気になる部位 *

- 腰
- 股関節
- 腿前
- 腿裏
- 膝
- ふくらはぎ
- すね
- 足首
- けつ
- その他
- 全くない

*リーグ戦開幕～合宿 フィードバックまとめ (2018/4/30～8/17) 担当 野口

	全体 (66人)	4年 (21人)	3年 (16人)	2年 (16人)	1年 (13人)	練習難 脱者	筋肉系・ グロベな ど(予防 可能な けが)											
								腰	股関節	腿前	腿裏	膝	ふくらはぎ	すね	尻	足首	その他	
リーグ戦	4月30日	16	7	5	4		11	0	3	1	2	2	5	2	3	0	7	1
	5月7日	26	9	5	7	5	8	1	4	5	5	2	2	2	4	3	11	4
	5月14日	28	9	5	7	7	10	1	3	5	6	2	3	3	1	1	13	2
	5月21日	30	12	3	6	8	13	3	1	7	5	3	5	4	3	1	16	2
	5月28日	29	13	3	7	6	13	3	2	5	6	2	4	4	3	0	13	4
	6月4日	26	7	5	6	8	12	3	1	5	5	5	4	1	1	0	8	3
	6月11日	26	9	4	6	7	17	3	3	3	2	5	6	3	3	1	12	1
	6月18日	25	8	3	7	7	18	4	6	2	2	4	4	1	4	0	13	2
	6月25日	21	7	2	7	5	15	4	4	1	3	3	3	0	2	1	14	1
	7月9日	20	5	5	5	5	11	3	4	2	1	1	1	3	2	1	8	1
	7月16日	21	4	4	6	7	11	4	5	4	3	3	2	0	1	1	6	1
	7月23日	24	7	5	5	5	12	5	3	2	4	5	3	2	1	0	11	1
	7月30日	24	8	6	4	6	14	5	2	7	0	4	2	3	1	2	9	4
	合宿	8月6日	24	8	6	8	4	17	1	2	5	3	3	5	2	1	2	9
8月17日		37	7	9	10	5	14	3	6	8	9	1	8	6	4	1	12	6

*リーグ戦開幕～4節あたりにかけて増加傾向。4～5節に1度ピーク。

*リーグ戦の後半になると疲労の蓄積によりグロインペイン(股関節周囲の痛み)が増える。

*梅雨の時期は体育館、状態が良くない小平Gが多いため、やはり足首が増える。

*合宿明けは股関節・腿前が増える。

総じてこの4年間は、「何のためにこの部活にいるのか」という問いと向き合い続けた4年間でした。上記の取り組みを含め「マネージャーとして部活に貢献できること」を模索し、実行に踏み出せた部分が大きかったのではないかとも思っています。自分や他人とも、これまでに（また今後も）ないのではないかと思うくらい深く向き合い続けた4年間でした。おそらくマネージャーをやっていなかったら、知る機会もなかったであろう自分の弱みと向き合えたことや、他人と本気で向き合ったことにより真の信頼関係を得られたこと（特に同期マネージャーには感謝してもしきれません）は、私にとってかけがえのない財産です。無数の選択肢が広がっていた大学生活において、このような貴重な経験ができたのは、ア式蹴球部への入部を決意したおかげです。4年前の自分を褒めてあげたいです。



最後になりますが、今年度苦しい戦いの中でも応援し続けてくださったOB・OGの皆様、本当にありがとうございました。日々部活ができるということは当たり前のように、とても幸せなことなのだと、この4年間を経験して痛感しています。少し無責任な形にはなってしまうかもしれませんが、今年度の後輩たちなら本当に1部復帰を成し遂げてくれると信じています。そして私も1人のOGとして、応援しています。



お疲れ様です。フィジカル怪我班からです。依然として膝を痛めている人が多いので、膝の慢性的な痛みについてです。外傷により痛めたのではなく、疲労の蓄積などで徐々に痛くなっている人・慢性的に痛い人は以下の症状の可能性が高いです。ストレッチを載せておくので、練習前後や寝る前などに意識して行ってください！また、怪我をしていなくても押してみても痛みがある人は、アイシングを行った方が良さそうです。

図説 74
膝の痛み

↓ 膝の外側

【腸脛靭帯炎】 Stretching!

腸脛靭帯炎は、太ももの肉離れを伴っている長い腱で、膝蓋骨と脛骨の間を走行します。その部分が硬くなってしまえば、ジャンプや走った後の痛みが増え、膝蓋骨の動きを妨げます。

① 両足を肩幅より広めに開き、膝を伸ばして立ちます。両手を天井まで上げて、両手を天井まで伸ばして立ちます。

② 両足を肩幅より広めに開き、膝を伸ばして立ちます。両手を天井まで上げて、両手を天井まで伸ばして立ちます。

③ 両足を肩幅より広めに開き、膝を伸ばして立ちます。両手を天井まで上げて、両手を天井まで伸ばして立ちます。

↓ 膝の内側

【膝足炎】 Stretching!

膝蓋骨と脛骨の間を走行する腸脛靭帯は、膝の関節の中で最も重要な役割を果たしています。

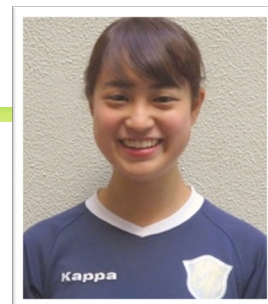
① 両足を肩幅より広めに開き、膝を伸ばして立ちます。両手を天井まで上げて、両手を天井まで伸ばして立ちます。

② 両足を肩幅より広めに開き、膝を伸ばして立ちます。両手を天井まで上げて、両手を天井まで伸ばして立ちます。

③ 両足を肩幅より広めに開き、膝を伸ばして立ちます。両手を天井まで上げて、両手を天井まで伸ばして立ちます。

🏆 四年間の記憶

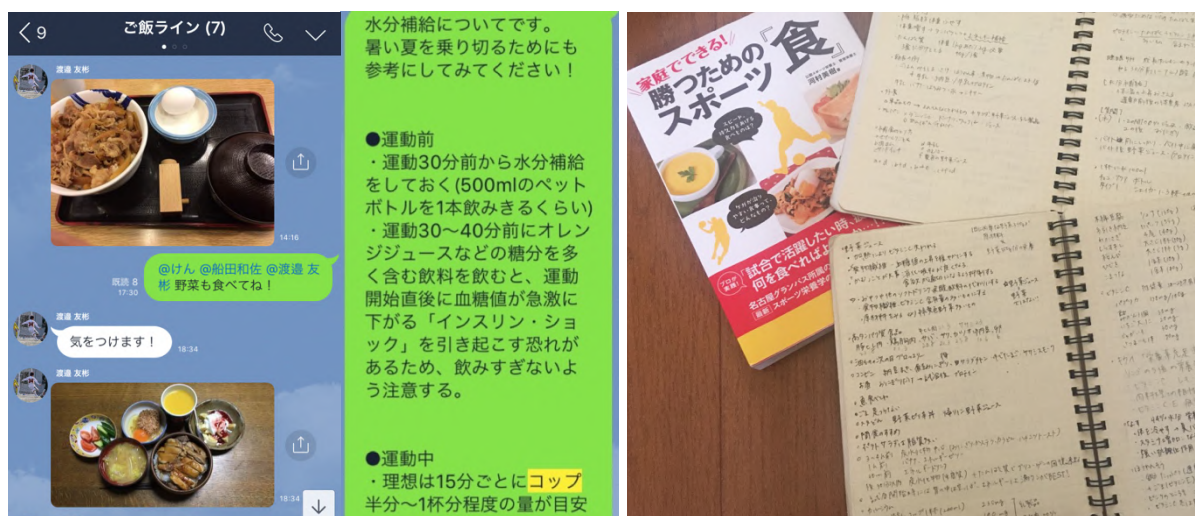
平野 優 (4年 MGR)



はじめに、OB・OGの皆様、これまでア式の活動を支えてくださり、本当にありがとうございました。2017年の活動停止の時に、現役部員以上に真剣に活動再開に向けて考えてくださるOBの方々を見て以来、1部に昇格して恩返しすることが、私の部活のモチベーションの1つになっていました。私たちの代で、それを果たすことはできませんでしたが、これからは熱心なOGとして皆様と一緒に後輩たちの活動を応援したいと思っています。

現役時代、私はフィジカル、メンタル、イヤーブック、庶務の4つのユニットに所属していました。ここではフィジカルユニットの仕事について書かせていただきます。フィジカルユニットではシーズン通して良い状態でプレーし関東リーグ昇格を目指せるように、食事ラインの管理や選手への食事の知識共有などを行っていました。その中で苦労したのは、主に2点です。

1点目は、選手にとって実行しやすいような情報を流すことです。私は主に本やインターネットから食事の知識を身につけましたが、それらに載っている情報は「理想論」であり、全てがア式の選手たちに合うものではありません。一人暮らしで食事だけにお金をかけられない人もいますし、栄養に興味がない人、好きなものを好きなように食べたい人もいます。そんな人たちに少しでも普通の生活に取り入れてもらえるよう、コンビニで買う場合に選ぶと良いものを提案したり、本に書いてある単位をより身近なものに変換したり・・・ml表記のものを「コップ〇杯分」と表す等・・・些細なことにこだわってきました。ただ、選手一人一人の食事面での取り組みの効果を可視化するようなことができればよかったのではないかと、今になって反省しています。



↓ 昼に試合

*フィードバック資料

	4/28 (金)	4/29 (土)	4/30 (日)	5/1 (月)
朝	 <p>試合前日なのでもう少しご飯多いと良いです。 理想はどんぶり一杯です! +ジュースがあれば手軽にバランス良くなります</p>	 <p>試合が昼で、昼ご飯沢山食べられない時は 試合時にエネルギー満タンになるように 朝にもう少しがっつり食べても良いです!</p>	 <p>試合翌日なので、リカバリーが必要です! もう少し多いと良いです。あまり食欲なければ トッピング、ジュースを上手に利用しましょう。</p>	 <p>全体的に緑黄色野菜 (色が濃い、ビタミン豊富) が少ないので、日頃から意識的に摂れると もっと良くなります!</p>
昼	 <p>カーボローディング意識して。 試合前日はご飯大盛り注文で!</p>	 <p>昼の試合の時は、1,2時間前にこういった 消化の良い物を食べて試合に備えましょう!</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・ あんぱん ・ 鶏五目おにぎり ・ 鮭おにぎり ・ 飲むヨーグルト <p>乳製品取り入れてて良いと思います。 コンビニでパン、おにぎりを選ぶときは 脂質少なめ、たんぱく質多めを選ぶと良いです。 チョコイスです!</p>	 <p>これだけだと脂質の比率が高くなるので、 一品追加したり間食を摂ることで、 バランスをとりましょう。</p>
夜	 <p>カーボローディングは炭水化物7 : おかず3 なのでこのバランスが良いです。 (欲を言えばご飯もっと食べたい。)</p>	 <p>炭水化物、たんぱく質、ビタミン摂れてて リカバリーにとっても良いです! 大血料理の時は、バランス意識して食べてね。</p>	 <p>脂質たっぷりなので、付け合わせにサラダを 食べたり、後で野菜ジュース摂るなどして バランスを意識しましょう。油脂は消化に 時間がかかるので夜遅くに食べると太ります。</p>	 <p>おかず (たんぱく質、野菜) もう少し 多いと良いです。オレンジジュースです!</p>
総括	<p>カーボローディング期間 = 炭水化物多め、おかず少なめ は意識できてるので、 それ以外の日 = 栄養フルコース型 (野菜、果物、乳製品が不足しがち)を意識しましょう! 毎食バランス良いのがベストですが、間食を利用するのも たんぱく質も日頃からもう少し多く摂りたいところです。(毎日体重×2gのたんぱく質を摂るのは結構大変です。) 普段の食事に 卵、納豆、ハム、チーズなどを加えることでくっと良くなります!</p>			



2点目は、選手からの信頼を得ることです。

選手から見ればマネージャーは、ただ言うだけの存在です。

“言うだけなら簡単だろう”、“実際にやらない人から言われたくない”と同期プレーヤーから言われたこともありますし、そう思われても仕方ないと思います。でも、それが悔しかったので、この人に言われたら実行するしかないと思えるくらいの人になるう、選手からの質問や指摘には全部答えられるようにしようと思って、ずっと取り組んできました。

四年間を振り返ると、2点目の「信頼」ということを、ずっと考え続けてきた気がします。

- * サッカー部でサッカーをしないマネージャーが、選手からの信頼を得るには？
- * 「良い関係性」を築くと本当に良い結果が得られるの？
- * 性格も考え方も違うマネージャー同士で、「良い関係性」を築くには？

そんなことをぐるぐる考えながら、がむしゃらになって毎日過ごしていました。
今考えると、とても狭い世界で些細なことにこだわっていた気がします。
この四年間は、入部当初の予想を遥かに超える試練の連続でしたが、
1つのことにひたすら向き合えて夢中になれたのは、本当に価値のあることだと思います。
自分の強さ・弱さがよく分かったし、なにより四年間一緒に悩んで、刺激し合って、
最高の瞬間を共にできた同期や先輩・後輩は、私にとってかけがえのない存在となりました。
この「四年間の記憶」は、どんなに時間が経っても薄れさせたくないな、と思っています。



平成 31 年度シーズンに向けて

 「一心」で、再び1部の舞台へ

高山 修也 (3年 新 GM)



昨季は一橋大学ア式蹴球部にとって厳しいシーズンとなりましたが、何とか最終節に残留を決め1部昇格という望みを今年に繋げることができました。あのような形で昨季を締めくくれたのは日頃からご支援頂いている OB・OG の皆様のおかげです。この場を借りてお礼申し上げます。本当に有難うございました。

本当に苦しいシーズンでした。結果が思うように出ず、自分達の力はこんなものではないと、思えば思うほど歯車が噛み合わなくなるといった悪循環の中で、苦しみながらサッカーをしていました。特に印象に残っている試合が秋季の成城戦です。0-1で敗戦し、1部昇格の可能性がほぼ途絶えた試合でした。私は関東リーグでプレーするためにア式蹴球部に入部したのですが、この敗戦は、私の夢をいとも簡単に打ち砕いてみせました。本当に悔しかったですし、試合後もなかなか立ち直れませんでした。

関東リーグに挑戦するという夢はもう叶いそうにないですが、まだ私にできることが残されています。それは今の後輩たちに関東に挑戦するチャンスを与えてあげることです。目標を達成するため、今年必ず1部に昇格します。去年は不甲斐ない試合が多かったので、今年は熱い試合をして1つでも多くの勝利と感動を皆様にお届けします。そのための私たちの歩みは、もうすでに始まっています。最後に待つのは何かわかりませんが、私がこの組織の先頭に立ち、部員全員で前へ前へと進み続けたいと思います。これが私の決意表明です。

私たちは、今1部に昇格するという「一心」で、部員全員が行動しています。ですので、OB・OGの皆様には、今年も変わらぬご支援とご声援をお願いしたいと思います。その気持ちには、言葉よりもプレーや結果でお応えしようと思いますので、是非グラウンドに足をお運びください。今シーズンも応援よろしくお願い致します。



🏆 温泉三昧、ついでにサッカー

橋詰 邦弘 (昭 56 卒)



極上の温泉につかり、地元の名産・名酒を堪能する。

そのついでにサッカーも楽しむ。こんな目的が逆立ちした「山形遠征」は、

西松会の還暦前後の世代にとって6月の恒例行事となった。シニアチーム「山形モセス」と

(山形東高や山形大の卒業生らで構成)、慶応大サッカー部OBチームとの定期交流戦は3回を

数える。10年ほど前、山形県内の市議会議員が一堂に集まる研修会に、講師として呼ばれたのがきっかけだ。そのときの事務局長役が、モセスの中心メンバー。

“毎年慶大のOBと定期戦をやっているんです。そこに一橋も来ませんか”と誘われた。



vs 山形モセス



vs 慶応OB



橋詰



土曜日の朝に新幹線で山形へ。

昼からゲーム、夜は温泉と宴会。翌日曜日は観光し、夕方に帰京というのが基本日程。

初参戦の際は慶大が定宿にしている上山温泉の旅館に泊まり、3チーム合同の大懇親会で交流を深めた。ただ大浴場が小ぶりで一度に入ることができなかったことから、2回目からは蔵王温泉に宿舎を変えた。効能抜群の白濁した強烈な硫黄泉、しかも大浴場露・天風呂・清流沿いの野天風呂と、温泉好きにはたまらない。試合会場のグランドからホテルまで、翌日は観光地までバスの送迎付き。おまけに女将の地酒差し入れと、心のこもったおもてなしに、すっかり我がチームお気に入りの宿となった。勝敗は二の次、いまだにサッカーができる幸せをかみしめ、大学時代の思い出やそれぞれの近況を語り合う。



1部屋に5人ずつ泊まる合宿スタイルは、タイムスリップを味わえる。

この遠征に欠かせないメンバーは、私の旧知の友人で、かつて山形市議会副議長を務めた山形市シルバー人材センター理事長の長瀬洋男さん、そして昭52卒の女子マネージャーで山形市在住の高橋真理子さん。お二人ともなかなか入手できない地酒などを持参、一緒に温泉に泊まり四方山話に花を咲かせる。最近山形モセスが傘下の女子チームを定期戦に加え、貴重な体験も積んだ。30度前後の気候の中、20分×6本を13人ほどでこなすのはさすがにきつく、去年は仙台などから数人の「助っ人」を頼んだが、できれば自前でチームを編成したいと思っている。

これまでに蔵王の御釜、1000段の石段の先に絶景が広がる山寺、米沢市の上杉神社など観光スポットを回った。ちょうど初夏に彩りを添えるサクラノボの収穫が始まろうとする時期。次回こそは、懸案の「赤い宝石」狩りも実現しよう。試合は無理でも、観光と温泉を楽しみたいという方も大歓迎だ。



上杉神社



山寺

🏆 仕事とサッカーは似ている

樋口 哲司 (昭 59 卒)



言い訳から …

福本先輩から「西松会新聞の記事を書いてくれ」とのご依頼をいただき、“先輩の仰ることは従わねば”ということで快くお引き受けしたものの、いざ書こうと思うとネタが思い浮かびません。ちょうど中田英寿さんと飲む機会があったので“そのことでも書けばいいか”と思っていたのですが、ヒデはものすごく魅力的な人だったので、スケールが大きすぎて、ネタになるような話題とは程遠く、さらにサッカーは全然やっていないとのことでヒデの話は断念しました。そうこうしているうちに締切が迫ってきて、切羽詰まった末に思いついたのが、表題の「仕事とサッカーは似ている」です。立場上いろいろな社員に話すネタをストックしているのですが、そういうものを眺めていると、いつも思うのが“仕事とサッカーって似ているな”ということです。



*筆者の仕事は保険会社の役員（経営企画、広報などの担当）で、スポーツ関係者と会うことも多い。
（左：なでしこジャパン 高倉麻子監督 / 右：元ラグビー日本代表ヘッドコーチ エディ・ジョーンズ氏）

リングelman効果

社員にチームワークの話をする時に、ときどき使うネタです。

20世紀の初め頃、フランスのリングelmanという学者が綱引きで実験したところ、1：1のときは100%の力を出していたのに、2：2になると93%、以下3人で85%、4人で77%、8人では何と49%まで力の入れ方が落ちたということです。この何%という数字そのものは別として、確かに“他の誰かが頑張ってくれるだろうから、今回は自分はこのくらいで良いだろう”っていうこと、思い当たること、ありませんか？（正直、私も思い当たることはあります）これって仕事でもサッカーでも同じようなこと、ありますよね？

ここで、チームワークって何だろう、と考えます。

「一団の人々の連携」つまり「みんなで力を合わせて頑張ること」なのですが、大前提として「一人ひとりが全力を尽くす、100%の力を出す」ということが、とても大事だと思うのです。亡くなった平尾誠二さんとも一度だけ飲む機会があったのですが、平尾さんも

“日本では、ミスのカバーし合うことがチームワークと考えている人が多いけど、それは違う。それだと誰かがカバーしてくれるという安易な妥協に陥る”と仰っていました。

現役の皆さん、ぜひ、それぞれが自分に厳しく、常に100%の力を出し切れるよう、日々の練習から頑張ってください。安易な方に流れがちな私のような人間も、ビジネスの場面で100%を出し切るように頑張ります。

OB会がしっかりしている組織が強い

最後になりますが、私が代表幹事を務めていた2008年から2010年の3年間、

「OB会がしっかりしていることが現役の強化にも結び付く」と考えて、いろいろなことにチャレンジしてきました。当時は会費の納入率も悪く、西松会の財政もかなりピンチでした。会員の皆さんに現役の試合結果をタイムリーに伝え、現役の活動に興味を持ってもらうことで、会費の納入率も上げてきました。(今はTwitterで現役の試合速報が入ってきてありがたいです)現役の体制も随分としっかりしてきたと思います。ぜひ、今の良い流れをさらに加速させ、西松会の発展、人工芝プロジェクトの成功を基点に、現役のみなさんがサッカーを楽しみながら強くなれることを祈っています。人工芝プロジェクトもリングルマン効果に陥らないように、すべての会員が賛同し協力することを信じています。

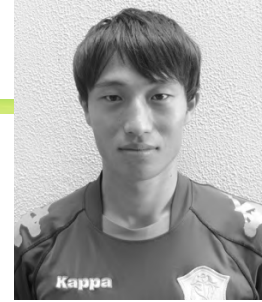
*東大御殿下グラウンドでの試合





ア式の価値向上に向けて 社会人サッカー編

金田 大樹 (平 28 卒)



2015年にGMを務めました、金田と申します。

卒業生の皆様、4年間お疲れ様でした。劳いの言葉とみんなへの溢れんばかりの愛はたくさん伝えているので（卒業生が感じ取っているかは別ですが）省略します。在学時代、今の4年生には話がつまらなくて長い先輩として偉そうにしていましたので、この場では近況報告を“簡単に”させていただきます。

卒業後の仕事

ア式を卒業後、私は中野に本社がある某飲料メーカーに就職し、社会人のスタートは福岡県北九州市にて飲食店の営業でした。地方に勤務することで地方ならではの課題にも向き合うことができたのは収穫でした。2年ほど勤務して、そろそろ東京に戻れるかなと思っておりましたが、昨秋に内示を受け、今度は福岡市で勤務をしております。まだまだお前にはお江戸の仕事は早いとのことなのでしょう。仕事内容は外食向けの営業をしていますが、九州内に本社のある大手チェーン外食企業やホテル、レジャー施設、交通市場を担当する部署に異動になりました。飲食店のオヤジを相手にしていたところから、大変お堅い役所仕事をする本社購買部などを相手にするようになり企業の意思決定の遅さに辟易する日々ですがこれを自社に当てはめると怖いなあとも思いつつ、一生懸命仕事しております。九州にお越しの際は、美味しいお店をたくさん紹介しますので是非ご連絡ください！ただしビールの銘柄は一番搾りを指定させていただきます。（連絡先：ye7shk@gmail.com 会社携帯：080-8590-0291）

サッカー面

プライベートでは、社会人チームに入って2年間そこそこ真剣にサッカーに取り組みました。スケアクロウズ北九州という40年間にわたって続くチームで、2017年初め、私の加入当時は、福岡県リーグの2部でした。夏には県内のカップ戦で優勝し、その延長でクラブチーム選手権九州大会に参加。これも制したことで、秋に岩手県遠野市で行われた全国クラブチーム選手権にも出場しました。実は恥ずかしながら、私はこの全国大会前の試合まで公式戦に出場できませんでした。スケアクロウズには早稲田のインカレ優勝時のメンバーや札幌大学で天皇杯に出場したメンバーなど、かなりレベルの高い選手がそろっていて、東京都2部リーグ出身の私は素人同然でした。なかなか試合に出られないというのは、振り返ると中学2年生以来で、どうやったら監督にメンバーに選んでもらえるか、自分の強み弱みは何なのか、さまざまな感情の中で自分に向き合った半年間だったと思います。

そんな中で、チャンスは突然訪れました。

県リーグの終盤、全国大会に行く2週間前の試合で、なぜか私はスタメンに抜擢されました。私のGM時代なら、このタイミングで出場経験のない選手を選べる自信はまったくありません。

それでも頂いたチャンスなので一生懸命頑張りました。結果、チームは勝利。
私もボランチとして最低限ではありましたが活躍をすることができ、監督に評価され、
全国大会は2試合ともスタメンで出場しました。2回戦でPKで負けてしまいましたが、
このチームでの経験は、人生でもそう何度も得られない大切なものだったと思っています。
すべては大会前のチャンスをものにできたからですが、今振り返ると、その要因は、

*4日も休んで参加できる暇人が他にいなかった・・・組織としての脅威

*チーム内に身長が高くヘディングができるボランチがいなかった・・・組織の弱み

*対戦相手/自チームの戦略や選手の質に応じてプレーを変えた・・・競合分析から自資源の活用

*少ないチャンス、それをものにするための食やコンディションの準備の質・・・機会

*日常から周囲のメンバーのことを気かけ、

組織の目標の達成を最大化させるプレーをしていた・・・強み

などに対し、しっかりと自分の中で戦略を立てて取り組み、実行したからだと思います。
これは考えると「自分という商品のマーケティング」の成功でもあったのかなと思っています。
改めてビジネスマンになって組織や社会の中で働くと、サッカーも仕事も重なる部分はたくさん
あります。少々無理矢理に聞こえるかもしれませんが、スポーツを通して得たスキルの培い方は
必ず汎用性があり、社会に出ても必要なスキルと何ら変わりがない、もっともっと磨いておけば
よかったと痛感しています・・・笑

*福岡県社会人サッカー選手権で優勝したスケアクロウズ北九州 2017年



学生の皆さんが普段何気なく取り組んでいることは、実は社会に出ても大事なスキルとして認識されていて、それが鍛えられていると思いますので懸命にサッカーに取り組んでください。仕事もサッカーも最後は人がやるものです。人が関わるには共通する認知・判断・実行があります。サッカーにもビジネス界での成功事例や考え方を持ち込むことで、もっと戦略が明確になり目標達成までの道筋が明確にもなりますので、現役の皆さんには、もっともっと外の社会に目を向けて取り組むことをお勧めします。すでに私がいた頃とはチームも大きく成長を遂げ、さまざまな取り組みを拝見しています。引き続き楽しみに遠くから応援させていただきます。

このことを全く別の視点で振り返ると、

入社2年目でサッカーの全国大会のために、普通の平日に4日間も有給休暇を許可して参加させてくれる会社もなかなか無いですね。プライベートでの休みもとれるいい会社です。在学生の皆さんには、是非是非キリンへのエントリーをお勧めします！

ア式OBの一員として

話は長くなりました。最後に、私が最近考えていることを伝えさせてください。

★サッカーは素晴らしいスポーツ

11人だけでなく周囲の人間の感情や価値観を変える経験は、なかなか簡単にはできません。貴重な経験を日常的にできる現役のみなさんを我々は羨ましく思っています。みなさんが最高の環境でサッカーができるように、ソフト・ハード面も含めて可能な限りのサポートをOBが保障しますので、存分にさまざまなTry&Error&Learnで成長してください！今年も期待しています。

★ア式の価値向上に向けて

こちらは自分を含めたOBの皆様向けにはなるかもしれませんが。

一橋大学ア式蹴球部は大変貴重な組織です。学生主体であること、選手獲得方法や練習環境が厳しいこと、そしてその中で育ってきた我々OBの存在があることが貴重である大きな要因かと思っています。この組織が長く発展し、世の中にもっと価値を与えるものになるためには、現役の成長・結果をもって証明することはもちろんのこと、このア式で学んだことを体系化し、ビジネス界で世のため人のため本気で向き合い、成功している皆様のスキルをしっかりとア式での活動とつなげていくことも同じくらい大事だと個人的には考えています。

西松会新聞やOB総会の場などで、今一度ア式時代に培われた価値観、それを形成した出来事、そこから学んで自分の人生の成長に活かしたことなどを、もっともっと明確にしていくことで、ア式の価値は副次的に上がると考えています。いつか自分も「ア式での学びが人生を変え、世の中をいい方向に変えた」と言えるように、これからも、さまざまなことに一生懸命取り組みたいと考えております。

もう1つ、この場をお借りしまして私事ですが、皆様にご報告をさせていただきます。
ご縁がありまして、今シーズンより九州大学サッカー部のヘッドコーチをすることになりました。
今の九大サッカー部は、一橋と同様、「学生主体」の運営で結果の出せる魅力的な組織作りに
着手し始めたところで、何か似たような境遇や想いを感じ、ご協力させて頂く形になりました。
遠く離れた土地ですが、私も大学サッカーの価値向上の一助となれるように、懸命に取り組んで
まいります。ご報告も含めまして少し真面目？に締めました。今期も学生のみなさんの成長・成果
とOBの皆様のご活躍・ご健康を祈念しております。よろしくお願いいたします！



🏆 授業に行く僕は哀れな労働者

城所 知希 (3年)



サッカー以外の学生ライフを考えた時に、最初に思いついたのは単位の獲得だった。自分は割と現実をしっかりと見ているほうだ。

残念ながら自分は、たいして頭がよくない。これは紛れもない事実である。この一橋大学には、自分よりはるかに頭の良い学生がいる。そういう人たちは極力労力をかけずに良い単位を取る。そんな彼らがうらやましかった。勝手なイメージだが、テストで感想文を書けばいい社会学部、出席してほどほどにやればいい商学部とは違って、出席も評価されず、テストでわけのわからない数式を動かせないと単位が取れない経済学部にいることを、何度後悔したことだろうか。

でも、僕はめげなかった。

週 13 コマの授業に通い、部活後の眠い授業であっても必死にノートを取り、過去問に向き合い睡眠時間を削ってでも単位が取れるように勉強した。みんなには“コスパ悪い”“授業に行く割に成績が悪い”“結構バカ”とさんざん言われてきた。気付いたら3年間が経った。多くの同期は、3年で卒業を決める路線から脱落していった。でも僕は、最後まで生き残った。しぶとく学校に行き続けた。最終的な成績は中の上～上の中といったところだろう。同じくらい学校にいる人はもっと成績がいいことは間違いない。ご立派なことを語れるようになったわけではない。自分が手にしたのは、広く薄い知識と周りからの少しばかりのお礼である。

僕の周りには授業に来ない人が多くいる。

彼らは授業に行く人たちから情報ももらって、テストに挑む。そして口をそろえて言う。

“ああ～あれね、授業行かなくても単位とれるよ、テストも過去問通りだし”

いや、ちょっと待てよ、彼らがテストに臨めるのは誰のおかげなのか。誰が睡眠時間を削って過去問を解いてきたおかげなのか。彼らがバイトをしたり家で寝ている間にも授業に出て、必死こいて勉強してきた自分たち、そう「労働者」のおかげなのである。

我々労働者はもっと声を上げていい。もっと見返りを要求しよう。

利用されるだけではダメなのである。単位の獲得において情報を持つものは何より貴重な存在である。授業に出ない人には、その存在の大切さを再認識してもらう必要がある。僕がこんな事を書いて情報も、ただただ搾取される後輩は必ずいるはず。なんでこんな人たちのために協力しなきゃいけないのだろうと思うかもしれない。でも頑張っしてほしい。それは多分、この部活に入った時からの宿命だから (笑)

🏆 マネージャー 華の女子大生ライフ

菅家 恵 (3年 MGR)



今回、私はア式のマネージャーをしながらも女子大生を満喫しようと頑張る日々について書きたいと思います。

朝6時、起床。

前日は飲食店でバイトを夜11時までやっていたため、とても眠いです。昨日もちょっとしたミスで店長に嫌味を言われて辞めたいと思いました。すぐに朝ごはんを作ります。といってもミニトマトとご飯と納豆です。料理はめっきりしなくなっていました。その後、急いで部活の準備。化粧も眉毛を描いて日焼け止めを塗って終わりです。なぜなら、どうせ小平で土が土がついてしまうし、帽子をかぶっていればバレないからです。そうしてるうちに家を出なくてはいけない時間です。

家から自転車を漕ぎ25分ほどで小平グラウンド到着です。“”

マネ部屋のドアを開けると、マネージャーみんなが揃っています。集合時間3分前くらいのギリギリの時間に着くのが私のモットーです。でも、遅刻は一度もしたことないです。



練習が始まります。今日も日差しが強いです。私はア式に入って、とても日焼けしました。バイト先で、お客さんによく“マリンスポーツやってるの?”とか“ハーフ?”とか言われ、とても悲しい気持ちになっています。ア式で失ったものの一つですね。

約2時間の練習を終え、選手としゃべったり、マネ部屋でも、ちょっとダラっとして帰ります。

今日は夜に用事があるので、シャワーを浴びて2時間くらい寝ます。

午後4時くらいに起き、気合いを入れて化粧をします。渋谷で高校の友達の誕生日を祝います。恋愛トークや悪口を話す、いわゆる女子会です。お決まりのサプライズケーキも出しました。そして夜12時くらいに、部員に汚いとよく言われる我が家に帰ります。

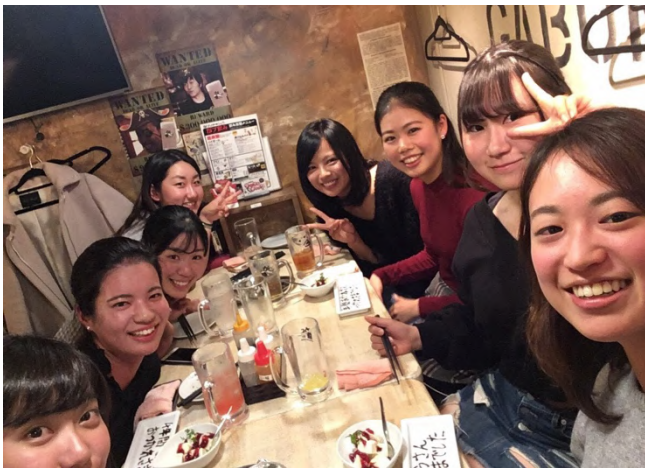
水日の夜は、大抵こんな感じです。

女子大生の生活の質としてどの程度のレベルなのか計りかねますが、私は毎日愉快的選手と可愛いマネージャーたちと非常に充実した日々を送り、幸せに過ごさせてもらっています。

*夏合宿 2018 茨城県波崎地区にて



*女子マネ会



⚽ ト라우マ的アルバイト体験記

雨宮 一郎 (2年)



桐朋高校という一橋大学の近くにある男子高出身で、ポジションはCBをやっております。OBユニットに所属しており、来年以降は、よりOBの皆様と密に接する事になると思いますので、何卒よろしくお願い致します。温かい目で読んでいただければ幸いです。

今回のテーマとして、どんな大学生活なのかというものがありませんでしたが、私の生活は、そのままア式の活動と言い換えることができると思います。大学生の生活はアルバイト・部活・恋愛という、3つの要素でその充実度が測られているとよく聞きますが、部活動と比較して他の2つは目を覆いたくなるような惨状であるからです。特にアルバイトに関しては現在全くやっておりません。同期からのバイトをやっていないことへの糾弾を避けるために、話題が挙がると、うつむいて気配を消す技術力を身に着けることとなりました。

なぜアルバイトをやっていないのかと聞かれると、3日で辞めた塾講師がトラウマになっていると答えています。この出来事は私の大学生活における恥ずかしい失敗談として、よくいじられております。なぜ3日で辞めたかと言えば、自宅近くにある東〇生しかない個人経営の塾での新たな試みの一環として、初の一橋大学生の講師として採用されたものの、3コマ授業を終えた時、そこの社長に“充電期間を設け、この仕事をやるかどうか考え直したら”と言われたからです。他の東〇生に対して壁を作っているなどという身に覚えのない非難に対して憤り、二つ返事でバイトを辞めてから塾講師はやっておりません。3コマ約3時間の短い塾講師人生でした。

未だに深層心理で納得がいかないからでしょうか、東〇ア式との練習試合ではよりプレーが激しくなり、相手を削る傾向にあります。私の学生生活の本分はアルバイトなんかではなくア式なのだという気持ちを持って頑張ろうと感じるようになった失敗談でした。



🏆 1人暮らし

達 康大 (2年)



「私の学生ライフ」ということで、自分の1人暮らしについて書かせて頂こうと思います。私は元々横浜で実家暮らしをしていたのですが、国立まで1時間半近くかかっていたので、親に頼んで1人暮らしをさせてもらうことにしました。そして昨年5月から大学の近くで1人暮らしを始めました。

1人暮らしのメリットとしては、毎日自分の好きなものを食べることができる、家族と被ることなく自分の好きなタイミングで風呂に入ることができる、他の人の目覚ましによってオフの日に早い時間に起きなくてすむなど、くだらないことは、いくらでも思いつきますが(笑)、最大のメリットは、部活の日に遅くまで寝ていることができることです。それまで8時から小平で練習の時は、4時50分に起床して5時30分に家を出ていたのですが、1人暮らしを始めてからは、6時30分に起床して7時10分に家を出るようになりました。自然と睡眠時間を長く確保できるようになったので、部活でのパフォーマンスも以前より向上した気がします。

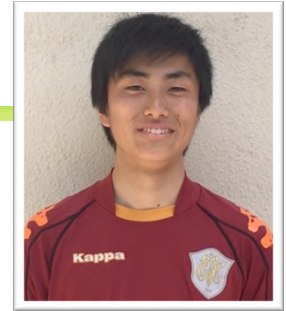
逆にデメリットとしては、毎回自炊や洗濯、掃除を自分でするのが面倒、実家暮らしに比べてお金が貯まりにくい、自分で買い物をしないと冷蔵庫の中身が増えない、などが挙げられます。自分の性格のせいもあって、自炊や洗濯、掃除はいつになっても気が進みません。特に掃除は極論しなくても生活できるのでいつも後回しにしてしまいます。

このようにメリットもデメリットも書きましたが、トータルとしては1人暮らしを始めて良かったと思っています。確かにいつになっても家事は面倒ですが、実家暮らしではあまりしてこなかった貴重な経験です。加えて、同じ1人暮らしの同級生と過ごす時間が圧倒的に長くなり、以前よりも仲が深まったと感じています。

最後に、あと2年しかない大学生活を部活だけでなくプライベートも充実させていきたいです。そのためにも嫌いな家事も頑張ります。

🏆 彼女との思い出

阿部 海斗 (1年)



僕が彼女と出会ったのは2016年の初夏、高校2年の夏休み目の日だった。艶やかな黒髪、大きくて印象的な瞳、100点満点の位置にあるほくろ。そう、彼女は顔面偏差値80オーバーの圧倒的美少女なのだ。しかし、彼女の魅力はルックスだけではない。容姿に引けを取らないほどの内面性、才能を持ち合わせている。

まずは彼女の雰囲気、キャラクターについて。

一言でいってしまえば彼女は天然キャラである。凡人とはかけ離れたワードセンス、ベクトルが少しズレた感性。全く毒がなく、天真爛漫な彼女の姿を見ると、自然にその場全体がほんわかした空気に包まれる。次に彼女の才能について。彼女は異常なほどにピアノがうまい。そして、それ以上に歌声が綺麗。聴いているだけで耳が幸せだと主張してくる。ちなみに十八番は、フィンランド民謡のイエヴァンポルカ。料理と絵は少し苦手だけど、だし巻き卵と人物の模写は得意だと言い張る。

こんな感じで彼女の好きなところを長々と書き連ねてきたわけですが、実はまだ彼女としゃべったことすらないので、一応遠距離恋愛ということにしておきますが、もちろん連絡先も知らないので、ひたすら千載一遇のチャンスを待っているだけであります。おそらく彼女から認知されていないであろう僕ですが、11回会ったことがあります。

(実際には会ったというよりもお金を払って見に行ったというほうが正確だとは思いますが) 1年で3回ほどしか会えないので、その時は感動のあまり泣きそうになることもあります。死ぬほどかわいいです。僕が、なぜ告白をしないのかというと(手段がないからできないという事実はさておき)、彼女が諸事情により恋愛禁止ルールに縛られているからであります。

そろそろ皆さまも違和感を覚えている頃かと思しますので、カミングアウトしますと、僕が3年間片思いしている彼女とは、乃木坂46の生田絵梨花さんのことです。

僕は内気な性格で、そもそも未成年ということもあり、皆様の期待しているような合コンネタ、暴露話などには縁がなかったため、このようなアイドルオタクの妄想日記を書くことになってしまったことをお詫び申し上げます。これからも僕は「いくちゃん」を全力応援していきますので、皆さまもぜひ気が向きましたらチェックしてみてください。





🏆 僕と PS4

森下 昂 (1年)



11月某日、僕は唐突にPS4が欲しくなりました。

しかし、すぐに大きな問題に直面しました。お金がないのです。

一人暮らしに加え、来たる冬休みは学年旅行などがあるため多額の出費が予想でき、最低限の生活費は確保しておかないとゲームどころではなくなってしまいます。このような状況下では、買うのは我慢しようと思うのが普通です。しかし僕はPS4が、とてつもなくやりたかった。ナンバリング制覇してきたドラクエをやりたかった。そこでPS4をできるだけ安く買う方法を模索し始めました。

まず考えたのは中古です。

でも、「コンシューマーゲーム機は新品を」というこだわりがあるため即却下。

次にアマゾンですが、3万近くしてしまう。家電量販店などでもコンシューマーゲーム機は値段がほとんど変わらないし値下げもない、僕は妥協して3万円で購入しようと思いました。ソフト代込みだと4万円。これを買ってしまうと学年旅行に参加できなくなるかもしれない。なかなか悩ましい天秤です。そして僕はPS4の方に心が傾いていました。さらば学年旅行、と心に決めた次の週だったのでしょうか。2つの素晴らしいことが起こったのです。

1つ目は、PayPayです。

PS4がヤマダ電機で20%キャッシュバックで購入できるようになったのです。

これだけで6000円の節約です。PayPayは色々騒がれてますが、店頭で値引きされないゲーム機やアップル製品を購入するには唯一の賢い使い方だと思います。

そして2つ目は、「大バンバン振る舞い」というPS4の冬休み商戦です。

なんとPS4が28000円で購入でき、プラスとしてソフト2本が無料でついてくるといって本当に大盤振る舞いな企画でした。そのソフトには僕がやりたいものが入っていました。もう何かの巡り合わせだとしか思えませんでした。僕は、この二つを組み合わせることでPS4を購入することにしました。結果、本来なら40000円以上したものが、なんと15000円でも購入することができたのです。15000円も節約できました。

家にいる時間はPS4にとけています。必要経費をいかに削減するか、

一人暮らしの楽しみは、こんな所にもあると思った1件でした。

追悼 ヤスベー

平成 30 年 5 月 15 日、
ヤスベーこと、安部裕二くんは旅立った。享年 63。

現役時代は、CF。
恵まれた体格を生かした打点の高いヘッドとパワフルな
シュートが持ち味。ただ多くのシュートは、いわゆる
「宇宙開発」であったのが、玉にキズ。

昭和 52 年、卒業後、日本長期信用銀行に入社。
社内結婚をし、一男二女を授かる。
平成 10 年の長銀の経営破綻後は、苦労を重ねる。



西松会においては副会長を務め、上の世代の方々への会費の督促と西松会新聞の原稿依頼を
一手に引き受けていた。小平 G 人工芝化 PJ には当初から関わり、大学や施工業者、他の部の
OB たちと何度も打ち合わせ総会で報告していた。また一橋シニアサッカーの世話役・リーダー
でもあり、さらに現役のリーグ戦にも毎週のように顔を出し、グラウンドの横に立って熱心に
声援を送っていたという。やすべーは 20 代から 80 代まで、様々な年代の OB の橋渡し役を
長年務めてくれた得難い男だった。



平成 27 年、「進行性核上性麻痺」を発症。
脳内の神経細胞が減少し体の平衡が保てず転倒しやすい、
下の方が見にくい、しゃべりにくい、食べ物や水が飲み
込みにくい、など様々な障害が現れる。未だに効果的な
治療法が発見されていない難病である。それでも
泣き言など一切言わず、3 年間、闘病を続けていた。

葬儀にはサッカー部 OB・現役と元長銀の方々が
およそ 200 名集まり、見送った。
棺には、赤白赤のユニホーム、スパイク、応援マフラー、
そして、最後に観戦した商東戦のパンフレットが
添えられていた。

後日、彼を知る有志一同で追悼文集を作り、
ご家族に届けた。その一部を掲載する。

⚽ 高峯 文世 (昭43卒)

驚きました。5月6日の東大戦応援で彼に会い、安心してた矢先の訃報に・・・

「酉松会」には尽力していただき、又現役の試合にも数多く応援に来ていて、年次は離れていましたが、私がたまに応援に行く時は何時もお会いし、帰りに軽くお酒を酌み交わし楽しい一時を共有してきてただけに誠に寂しい限りです。

⚽ 宮内 正敬 (昭47卒)

安部さん逝去の知らせに言葉がありません。

忘年会の名幹事役、身体が厳しかったのに参加してくれました。

あの責任感は大変なものでした。私とは学生時代の繋がりはありませんでしたが、忘年会以来、気を遣って頂いて、私の母校・水戸一高の後輩を連れて銀座で飲んだこともありました。大変な気遣いでした。

⚽ 古市 正興 (昭49卒)

遠方にいますが、いつも報告してもらい、心配していました。

運命とはいえ、本当に亡くなることは辛いことです。

先日、名古屋酉松会があり、集まったみんなで追悼しました。

⚽ 吉岡 基夫 (昭49卒)

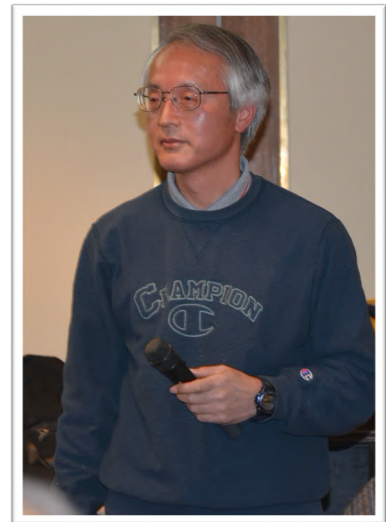
素晴らしい仲間を亡くし、とても残念です。

ヤスベーのおかげで、学生時代に最も親しくしていた皆様に、年に一度お会いすることができる様になり感謝しておりました。ご冥福をお祈り致します。

我らが良き友
ヤスベー ありがとう！



一橋大学ア式蹴球部
有志一同



🏆 遠藤 環 (昭50卒)

やすべえへ、まさか追悼文を書くことになるとは思わなかった。早いよ。
 大学時代の思い出としては、試合中に私がFWの安に、しょっちゅう怒鳴っていた記憶が鮮烈に残っている。守備をしろ！取られたら追っかける！
 スタミナ不足の安は、厳しい事言うなよってな感じで仕方なく一生懸命追っかけてた。今ではFWが守備をするのは当たり前だが、当時のFWは、点取ればいいんだろって、ボールを取られてもヘラヘラ笑っていたり、追っかけなかったりする奴もいたので、私はそれが腹立たしく、そいつへの怨念みたいなものをぶっつけていたのかもしれない。

時が経ち、忘年会で私が、“大学時代は始終怒鳴っていたことを謝りたい”と発言したら、“遠藤さんから、そんな言葉が出るとは思わなかった”とビックリしながらも、嬉しそうにしていたのが印象に残っている。

その帰り、ゆっくり歩いている安に追いついたので
 “幹事ご苦労様、1人ですごく頑張ってるね”と言ったところ、
 “長銀の件で皆さんにご迷惑をかけ、助けて頂いたので、これからは、その恩返しのつもりで生きています”と、はっきり言ったのには驚いた。信念があるのは偉いよね。

思うように身体が動かなくなってしまったのは、とっても残念で無念だったと思う。
 私だったら多分やけくそになっていただろうけど、安はトレーニングを必死にやってたんだね。そういう意味でも、私なんぞはとってもかなわない男だった。尊敬に値する素晴らしい男だ。安らかに眠ってくれ。



🏀 谷口 伸一 (昭51卒)

ヤスベーとの思い出は、彼が入学してから45年、数々あるけれど、やっぱり学生時代だね。グラウンド、合宿所、遠征先、試合会場、お互いの住まい、雀荘等々、大学で見かけたことはなかったけどね。楽しかった。人生の憂い、深い思考なんて微塵もなく、仲間たちは皆アホ(失礼)だった。ヤスベーの天真爛漫な笑顔が忘れられない。谷口さん、谷口さんといろいろ誘ってくれて、付き合ってくれて、ホントにありがとう。

5月20日、アスレチッククラブ千葉は、千葉市稲毛と市原市の2会場で4チーム約60名が対外試合を行った。私は稲毛に参加したが、クラブメンバーはユニフォームの袖口に喪章を付けて試合前に黙祷し、ヤスベーの冥福を祈った。市原でも同様に行ったはず。メンバーは皆、マネージャー役を引き受け、理事も務め、無私でクラブに貢献してくれたヤスベーを忘れていないし、これからも記憶に残すことと思う。



🏆 内田 泰彰 (昭52卒)

やすべーとは大学・長銀とずっと一緒だった。

君の病がわかるまでは年3～4回のペースで旧長銀サッカー部のメンバーと飲み会をし、W杯をを中心にサッカー談義に花を咲かせたことが懐かしい。すべて君のセッティングによるもので、ありがとう。

僕は中学からサッカーをやってきたが、今思えば決めたゴールは1つしか覚えていない。それは大学2年の秋、駒沢競技場での入替戦でのシーン。カウンターだったと思うが、センターライン付近の右サイドからの君からの鋭いパスをお腹に受けて、そのままドリブル、独走してゴール左隅に決めた。後日その話を君にしたら、「セメルにではなく、逆サイドへ大きく蹴ろうとしたが、ミスキックで偶々セメルのところへいった」と笑いながら話していました。でも本当は狙って蹴ったんだよね。

君のシュートで覚えているのは小平で、いつの試合だったかゴール正面のたった1～2mから大きくバーの上にはずしたこと。あれはないよね。でも、楽しかった。感謝しなくてはいけないのは、僕の結婚式で司会をしてくれたこと。おかげで良い式になった。ありがとう。好きだったサッカー、また皆でやろうね。待ってて下さい。



● 古庄 健一 (昭52卒)

「おもしろいヤツが来よったぞ！」 私が会社に戻ると開口一番、親父がそう言った。何でも安ペーがワリチョーを売り込みに来たらしい。当時、私は家業の呉服問屋を継いでいて、親父は社長だった。人と話をするのが大好きな親父はとても喜んでアイスコーヒーをご馳走し、帰ってもらったとの事。ただ、その時も、それから、ワリチョーを買うことはなかった。その後長銀もなくなり、安ペーも彼岸に逝ってしまった。家の仏壇に手を合わせ、安ペーが、またオヤジに会いに行くかもよと告げると、写真のオヤジも少し微笑んだようで、嬉しそうだった。

葬儀の時、ご長男・泰輔君の挨拶を聞きながら、安ペーの家族への思いと共に仲の良い家族だなあと感じた。とても素晴らしい挨拶だったと思う。バージンロードを娘さんと歩く事ができて、きっと嬉しかっただろうね。改めてご冥福を祈る。

● 木村 武志 (昭52卒)

こんなに早く逝ってしまうとは。。。2012年に胃癌をやらかした際に、同期で最初に皆に送ってもらうのは僕だと思いました。まさか体も鍛え、サッカーも元気に続けていた君が先になるとは。。。

君が小平の僕の4畳半の下宿に泊まってくれたこともあったね。翌朝、目覚めた時にラジオをつけたら、かぐや姫の「神田川」が流れてきて、なぜか二人で涙したことを昨日のこのように覚えています。いい奴だなあと思いました。

5月12日(土) 意識はなかったけど、君の右手を握って、額に手を当て、君の温もりを感じながら、声をかけさせてもらいました。きっと聞こえていたよね。必ず蘇えると信じていたので、その時は君への感謝の言葉は省いたけど、生前に直接伝えることができなくて、やはり悔いが残りました。やすペー本当にありがとう。暫くはゆっくり休んで、そちらで我々が揃うのを待っていてください。呑み会から始め、4人になったら麻雀、そして、そのうちにサッカーが、いつでもできるようになるね。



🏈 篠崎 信弘 (昭52卒 米ヒューストン在住)

学生時代、私は麻雀をやらず自宅から通っていたので、やすべーとはグラウンドが中心の付き合いでしたが、いくつか思い出があります。

飲んだ場所は忘れましたが、普段はもの静かな貴方が酔い、気分を悪くして地面に手をついた時、二人のヤクザ風の男に財布を奪われそうになりました。その瞬間、“あんたなんか人間じゃないよ”とまくし立てた時には、一緒にいた福本さんと、“こんなやすべーもいるんだ!”と、びっくりしましたよ。

それと就職して3年目、私が母親に今の家内との結婚に反対されて家出を決意し、自宅から歩いて行ける貴方のアパートに転がり込み、数日面倒をかけたことがありました。その節は、ありがとう。

私はあまり笑わない方で、家内からも

“あんたといると暗くなる”と言われ続けて40年になります。

先日、山根さんが「やすべー満載」との写真集を送ってくれましたが、その中に同期の山根さん・加藤さんと一緒に千葉の安房へ1泊旅行に行った時の写真があり、私の人生の中でも数少ない笑顔の私が貴方の隣で写っているのを見て、「私の宝物」と思った次第です。

*千葉・館山にて 2014. 9. 26



最後の数年は本当に疲れただろうね。ゆっくり休んでください。
一時帰国の時には連絡するから、ちょっと降りて来てよ、やすべー。

山根 言一 (昭52卒)

2015年11月22日(日)の東大戦で、
谷口さんから“やすべーが、何だかおかしいんだよ！”と言われた。本人に確認すると
“頭がモヤモヤする”とのこと。“更年期の年齢だから、脳内物質の量が変化したりする
こともあるので病院で調べてみたら”と、話してみた。

2016年4月、東京慈恵会医科大学付属病院葛飾医療センターに入院して
「進行性核上性麻痺」という病気だとわかった。うっそだろう！

我が家の相棒が文献を調べてくれ、

“日本に、この病気の専門家が3人いる。

その内の1人が千葉県鎌ヶ谷市の病院に勤務している”との情報を入手し、
奥さまにお伝えしたところ、早速娘さんも連れて受診。本格的な治療が開始された。

同年11月23日、

闘病中にもかかわらず東大OB戦の応援に来てくれたやすべーの姿を見て、
東大の池森さんが、うれし涙を流していた。いつも試合のアレンジをやってくれていたし、
選手としても運営スタッフとしても、一生懸命やっていたのを知っているから。



2017年、上の娘さんの結婚が決まり、当初は翌年6月挙式の予定だったが、
やすべーの病状を考え、年内12月に繰り上げて実施することに決定。その話を担当医が聞き、
“花嫁の父をやらなきゃいけないんだよね。じゃあ花嫁と二人で歩く練習だ！”と言って、
看護師さんを相手に練習！ おかげで無事に花嫁の父ができた。
先生、看護師さん、ありがとう！ やすべーが娘の晴れ姿を見られて良かった！ 間に合った！！



2018年5月6日、元気なうちに現役の東大戦を見せようと、御殿下へ連れて行った。
高峯さん、緒方さん、日置さん、橋詰さん夫妻、船倉さん他、
多くの方々が挨拶に来てくれて記念撮影。会えて良かった。



葬儀当日は、長銀時代の仲間が100人くらい参列した。
会社がなくなってバラバラになっているのに何という結束力。
普段はみんなの話をニコニコしながら静かに聞いているだけのように見えるやすべーが、
実は周りのみなさんに対して、もの凄いパワーを発揮していた。
病気になってからも、そのパワーは
短期間にももの凄く凝縮され、
まるでトルネードのような状態だった。
家族にとっても同じような存在だった、
やすべー。友達で良かったよ～！
ありがとう！



● 福本 浩 (昭52卒)

サッカーだけでなく登山もやる、同期の中で一番元気な中年だった。だから、あんな病気になるなんて思いもしなかった。でもね、その時からだ。みんなが、やすべーの存在の大きさ、大切さに気がついたんだ。

忘れもしない、2016年の忘年会。

すでに病気が進行していたのに幹事役を続け、杖をつきながらやってきて、言葉がうまく発声できず、ひどくドモるようになっていたのに、司会まで務めた。そして最後のあいさつで、こう言ったんだ。

“変な病気になって、すみません・・・”

俺は“なんで謝るんだよ！悪いのは病気じゃないか”って涙が堪えきれなかった。後から送られてきた写真を見て、また泣いた。そこには、俺をいたわるように見つめる、やすべーがいた。本当に泣きたいのは、お前だったろうに・・・そういう男なんだ、やすべーって。



2017年4月、同期の木村くん、山根くんと一緒に4人で LINE を始めた。
その頃は、しっかりと文字が打てていたが、9月ぐらいから誤字脱字が目立つようになる。
2018年に入ると、文字を入力するのにひどく苦しんでいることが、手に取るようにわかった。

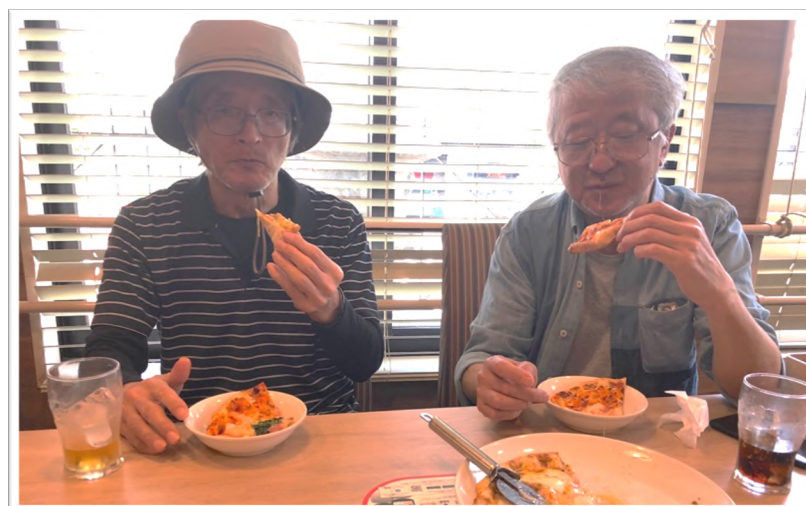


そして3月23日、突然、泣き顔の絵文字が着信。
血の気が引く思いがした。
知り合ってから45年、泣きごとや愚痴を一切言わず、
いつも穏やかな笑顔を浮かべていたやすべーが、
初めて見せた「泣き」だった。



4月25日、現役のリーグ戦を見に行こうと誘う。
翌日、今度は「喜び」の絵文字。ホツとする。
それからは娘さんが代筆してくれ、山根くんの
協力を得て、5月6日、伝統の東大戦に連れて行く
ことができた。

観戦後、ファミレスで遅い昼食。その時の写真が、最初で最後の2ショットになってしまった。
今度は麻雀をしようと言ったら、うなづいていた。悔しい。



それから9日後、やすべーは旅立った。

「優心院法柔日裕信士」・・・お前さんにぴったりの戒名だと思う。

葬儀会場に「武田節」が流れていた。やすべー18番の歌だ。

描写するのも憚れる猥褻な歌や踊りが飛び交うサッカー部の宴会で、

時代がかった生真面目な歌を、普段も試合中でさえも声を荒げることがなかった

もの静かな男が、声を張り上げ、朗々と歌っていた。何故こんな古臭い歌を選んだんだろう。

生まれ故郷ゆかりの歌だったから？ それだけではない気がする。久しぶりに聴いて思った。

やすべーって、武田軍の武将の生まれ変わりだったんじゃないか・・・

いつだって自分より人のことを思い、義理人情を大切にす、そして何より我慢強い男だった。

2018年11月23日、

千葉県の見川グラウンドで、恒例となった東大OB・職員チームとの対抗戦が行われた日、

やすべーのご家族が遺影を携え、初めて観に来てくれた。嬉しくもあり、寂しくもあり。



2018年12月29日、

やすべーが長年世話役を務めてくれ、恒例となった「新橋亭」での忘年会が開催され、

在りし日のやすべーの写真をプロジェクターで映しながら、追悼の思いを新たにす。

以前、こんなことをブログに記したことがある。

「40年ほど前にサッカーで生まれた縁が、こうして続いている不思議。

1人減り、2人減りとなることはわかっているが、いつまでも、このままで、と祈りたい」

この集いの中にやすべーは、もういない。でも、今の方が生前よりも身近に感じられる。

ずっと心の中に居座っている。やすべーがいなかったら、小平グラウンドで一緒にボールを蹴った仲間の大切さに気がつかなかったかもしれない。やすべー、本当にありがとう。

そっちに行くのは、もう少し先になるかも。待っていてくれ。また一緒にボールを蹴ろう！

「武田節」を歌いながら飲もう！



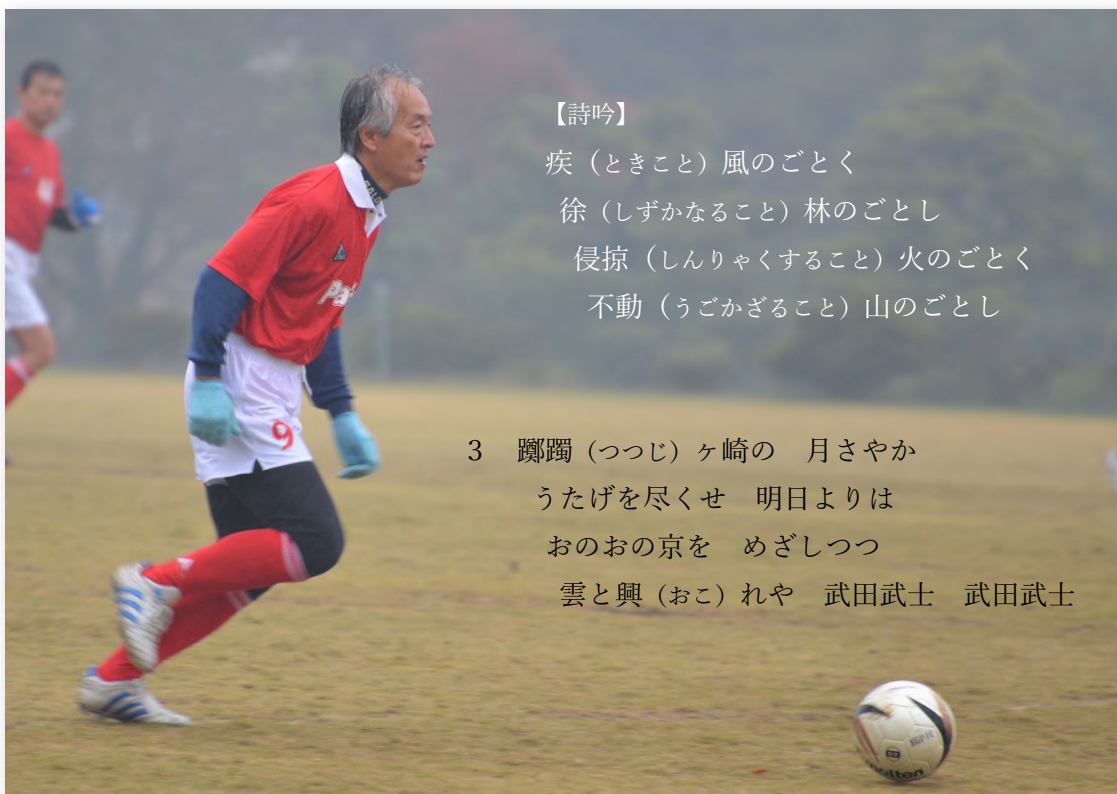
『武田節』 昭和36年(1961)

作詞：米山 愛紫

作曲：明本 京静

唄：三橋美智也


- 1 甲斐の山々 陽に映えて
われ出陣に うれいなし
おのおの馬は 飼いたるや
妻子(つまこ)につつが あらざるや あらざるや
- 2 祖霊まします この山河
敵にふませて なるものか
人は石垣 人は城
情けは味方 仇(あだ)は敵 仇は敵



【詩吟】

疾(ときこと)風のごとく
徐(しずかなること)林のごとし
侵掠(しんりやくすること)火のごとく
不動(うごかざること)山のごとし

- 3 躑躅(つつじ)ヶ崎の 月さやか
うたげを尽くせ 明日よりは
おのおの京を めざしつつ
雲と興(おこ)れや 武田武士 武田武士

 平成の終わりに

福本 浩 (昭 52 卒 編集長)

最後まで読まれた方は、さぞかしお疲れだと思います。

90 ページを超える特大号になりました。寄稿して下さった皆さんに感謝です。

今回、現役の諸君には 4 年間の思いと共に、

所属したユニットの活動について書いてもらいましたが、驚くばかり、恥じ入るばかり。

現役時代の自分は、随分いい加減な気持ちでサッカーをやっていたなあと、反省しきり。

今年こそ、彼らの努力が報われるシーズンになってほしい。

我々 OB ができる最大の応援は、小平に人工芝のグラウンドを作ることです。

ご協力を切にお願いします。

さらに今回の新聞には 100 周年に向け、新コーナー「百年史秘話」を設けました。

一橋サッカー部の歴史を綴った『60 年史』が作られたのは、昭和 56 年 (1981)。

もう 40 年近い昔で、読んだことがある人は少ないのではないのでしょうか。

私もちゃんと読んだのは、つい最近のことなので、大きなことは言えませんが・・・

創立時や戦前のサッカー部のことを語る OB も、どんどん少なくなっています。

あえて極論を言うと、

大多数の OB にとって関心があるのは、自分の現役時代だけ。

卒業後も記憶を共有できるのは、3 代上の先輩から 3 代下の後輩まで、せいぜい 7 世代。

しかし、その限られた世代の記憶は、100 周年を迎えるサッカー部の大切な歴史です。

もっともっと幅広い世代の記憶を集め、分かち合い、後世に伝えたい・・・

それがサッカー部の成長と、酉松会の交流促進・発展につながると信じています。

最後に『60 年史』から作成した、昭和 55 年までのリーグ戦の「戦歴一覧」を付します。

サッカー部の歴史に興味を持つきっかけになれば幸いです。

また酉松会 Website <http://www.yushokaishimbun.com> に「沿革」という

カテゴリーを設け、こちらにも「百年史秘話」に関連する記事を掲載していくつもりです。

特に『60 年史』以降の世代の情報が不足しているので、

自分の現役時代に、今までと違う方式でリーグ戦が行われるようになったとか、

新しい定期戦や練習方法を始めた、小平のグラウンドや部室、ユニホームが変わった、など

どしどしメールで送っていただきたいと思います。よろしくお願い致します。

fukug1954@db4.so-net.ne.jp

《草創期》			昭和 16 年 (1941)	1 部	4 位：1 勝 2 分 2 敗	昭和 40 年 (1965)	2 部	6 位：2 勝 1 分 4 敗
大正 10 年 (1921)	*初試合 vs 早稲田高等学院*		昭和 17 年 (1942)	1 部	最下位：1 勝 1 分 3 敗	昭和 41 年 (1966)	2 部	最下位：1 勝 1 分 5 敗
《専門学校蹴球リーグ》			昭和 18 年 (1943)	2 部	優勝：全勝 (3 勝)	昭和 42 年 (1967)	3 部	3 位：3 勝 2 分 2 敗
大正 11 年 (1922)	*商大・帝大・早大・東高師*		昭和 19 年 (1944)	～ 戦時休止 ～		《東京都大学サッカーリーグ I 期》		
大正 12 年 (1923)	～ 関東大震災 ～		昭和 20 年 (1945)	～ 戦時休止 ～		昭和 43 年 (1968)	1 部	2 位：6 勝 1 分 2 敗
《ア式蹴球東京カレッジリーグ》			昭和 21 年 (1946)	1 部	5 位：1 勝 4 敗	昭和 44 年 (1969)	1 部	5 位：4 勝 1 分 4 敗
大正 13 年 (1924)	2 部	5 位：1 勝 4 敗	昭和 22 年 (1947)	1 部	最下位：全敗	昭和 45 年 (1970)	1 部	5 位：3 勝 3 分 3 敗
大正 14 年 (1925)	2 部	5 位：2 勝 3 敗	昭和 23 年 (1948)	2 部	最下位：全敗	昭和 46 年 (1971)	1 部	4 位：3 勝 2 分 2 敗
大正 15 年 (1926)	2 部	3 位：2 勝 2 分 1 敗	昭和 24 年 (1949)	3 部	優勝：全勝	昭和 47 年 (1972)	1 部	7 位：2 勝 5 敗
昭和 2 年 (1927)	2 部	4 位：2 勝 1 分 2 敗	昭和 25 年 (1950)	2 部	4 位：2 勝 3 敗	昭和 48 年 (1973)	1 部	4 位：3 勝 1 分 3 敗
昭和 3 年 (1928)	2 部	4 位：2 勝 1 分 2 敗	昭和 26 年 (1951)	2 部	4 か 5 位：3 勝 1 分 2 敗	《関東大学サッカーリーグ II 期》		
昭和 4 年 (1929)	2 部	4 位：1 勝 3 分 1 敗	昭和 27 年 (1952)	2 部	4 位：2 勝 1 分 3 敗	昭和 49 年 (1974)	2 部	7 位：3 勝 4 敗
昭和 5 年 (1930)	2 部	最下位：勝敗不詳	昭和 28 年 (1953)	2 部	5 位：1 勝 5 敗	昭和 50 年 (1975)	2 部	最下位：2 分 5 敗
昭和 6 年 (1931)	3 部	最下位：1 分 4 敗	昭和 29 年 (1954)	2 部	5 位：2 勝 4 敗	昭和 51 年 (1976)	2 部	7 位：1 勝 1 分 5 敗
昭和 7 年 (1932)	4 部	優勝：3 勝 2 分	昭和 30 年 (1955)	2 部	6 位：1 勝 1 分 4 敗	《東京都大学サッカーリーグ II 期》		
昭和 8 年 (1933)	3 部	優勝：全勝	昭和 31 年 (1956)	2 部	6 位：1 勝 2 分 4 敗	昭和 52 年 (1977)	1 部	7 位：2 勝 5 敗
昭和 9 年 (1934)	2 部	優勝：全勝	昭和 32 年 (1957)	2 部	5 位：2 勝 2 分 3 敗	昭和 53 年 (1978)	2 部	優勝：6 勝 1 分
《関東大学サッカーリーグ I 期》			昭和 33 年 (1958)	2 部	4 位：3 勝 1 分 3 敗	昭和 54 年 (1979)	1 部	6 位：2 勝 2 分 3 敗
昭和 10 年 (1935)	1 部	5 位：1 勝 4 敗	昭和 34 年 (1959)	2 部	4 位：2 勝 2 分 3 敗	昭和 55 年 (1980)	1 部	5 位：6 分 1 敗
昭和 11 年 (1936)	1 部	5 位：2 勝 3 敗	昭和 35 年 (1960)	2 部	6 位：1 勝 2 分 4 敗	一橋大学ア式蹴球部 戦歴一覧 『60年史』より		
昭和 12 年 (1937)	1 部	最下位：全敗	昭和 36 年 (1961)	2 部	7 位：3 分 4 敗			
昭和 13 年 (1938)	2 部	優勝：全勝	昭和 37 年 (1962)	2 部	3 位：3 勝 4 敗			
昭和 14 年 (1939)	1 部	5 位：1 勝 2 分 2 敗	昭和 38 年 (1963)	2 部	6 位：2 勝 1 分 4 敗			
昭和 15 年 (1940)	1 部	準優勝：3 勝 2 敗	昭和 39 年 (1964)	2 部	7 位：2 勝 5 敗			